

第 2 2 回 石川 県 書 写 書 道 教 育 研 究 大 会

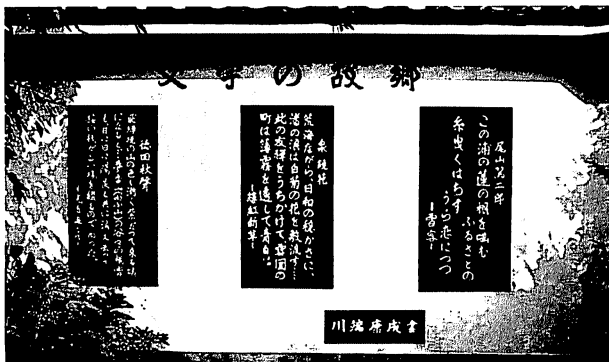
学校所蔵の書 拜見

文学の故郷
川端康成書

飛驒境の山の色も漸く紫だつて来る頃
になると、夢香山(高山)の谷々の根雲
も、日に日に陽炎と共に消え去つて、
梅の枝が白い珠を綴るのであった。
一光を追うてー 徳田秋聲

荒海ながら、日和の穏かさに、
渚の浪は白菊の花を教流す、
此の友禊をうちかけて、雲国の
町は薄霧を透して青白い。
一縷紅新草ー 泉鏡花

この浦の蓮の根を噛む
ふるさとの
糸曳くはちす
うら恋につつ
尾山篤二郎 一雪客ー



金沢市立馬場小学校

川端康成さんの書です。
馬場小学校の前に建てられている
三文豪の碑に刻まれています。

『第22回石川県書写書道教育研究大会集録』の発刊によせて

石川県書写書道教育連盟会長

第22回石川県書写書道教育研究大会会長

宮下 孝晴

私個人としては、前会長の藤 則雄先生から石川県書写書道教育連盟会長の大任を引き継ぎ、今回で二度目の研究大会を体験したことになります。今回は志賀町の下甘田小学校の5年生を対象にした研究授業、つまり「ライブ授業」からスタートし、次いで会場を志賀町文化ホールに移しての研究協議会と、あくまでも本格指向の教育研究大会でした。交通の便がよいとは言えない志賀町での開催にもかかわらず、藤 則雄名誉会長をはじめ相談役の法水光雄（福井大学）教授、押木秀樹（上越教育大学）准教授と、前回の金沢大会とほぼ同じ顔ぶれの先生方が応援に駆けつけて下さったことに心から感謝いたします。しかし、この有り難い状況が駆け出しの大会長である私の内に、何としても前回以上の成果を上げなければならないという使命感を煽ったこともまた事実です。

幸いなことに第22回大会は充実感に満たされて幕を閉じましたが、その最大要因は大会のスタートを切った研究授業が、まさに教育研究授業の看板にふさわしい内容と完成度であったことに尽きるでしょう。下甘田小学校の5年生を対象にした坂井雪江先生が実践した研究授業「文字の大きさと配列を確かめよう」は、授業を参観した誰の目にも「現代の小学5年生」に対する的確な指導プログラムがしっかりと工夫されており、現代の書写教育を取り巻く漠然とした不安材料を一掃してくれました。

「書写」と「書道」の世界を教育の現場でどのように展開するかという問題は、大学の研究室で「論」として研究されるだけで済むことなく、教育の現場における「実践の問題」として議論されなければならないということを改めて思い知らされました。私たちの想像を絶するスピードで変化する時代と社会、下甘田小学校の生徒たちもまたそうした新しい時代を生きる新世代の子どもたちなのです。「書写」や「書道」教育で生徒たちに伝えたいメッセージは、いつの時代も不変かつ普遍かもしれませんが、それを伝える言葉と方法は、教育する側の旧世代人種が日々必死で工夫しなければなりません。教育的効果が上がらない、つまり生徒たちに伝えたいメッセージが思ったように伝わらないとすれば、その主たる原因がどちらにあるかは言うまでもないでしょう。とはいえ、私はそう愚痴る教師個人に責任があるのだと言っているわけではありません。最大の責任は教育システム、あるいは教育科学の怠慢だと思います。「書写」や「書道」における実践的教育科学が時代に即した変革を怠らないためには、教育現場の教師一人ひとりが日々の実践研究を「批評」（研究会）というまな板の上のせ、いっしょに知恵を絞る必要があるのです。今大会後半の研究協議会では、多くのユニークな実践例が紹介され、新しい時代に即応するために、絶え間なく「脱皮」を余儀なくされる教育の現場を踏まえた、現実的で有意義な議論ができたと思っています。ぜひ、これを次回につなげたいものです。

最後に、平成23年度における各種の活動や研究大会の開催に多大のご尽力をいただいた実行委員や本誌の刊行、本連盟の運営に携わってこられた役員の方々、とりわけ（前）永江芳教理事長、（新）中川晃成理事長、岩田稚子事務局長、八田和幸副事務局長、ならびに今大会で発表された諸先生方に心から感謝と敬意の意を表します。

目次

学校所蔵の書拝見

1. はじめに 1
2. 第22回石川県書写書道教育研究大会要項 3
3. 研究発表Ⅰ・研究協議会Ⅰ報告 7

第5学年 国語科書写学習指導案

坂井 雪絵

研究協議会Ⅰまとめ

4. 研究発表Ⅱ・研究協議会Ⅱ報告 13

「授業実践に向けての具体的手立てを探る～授業実践から～」

—小学校—

◇ 実践発表

七尾市立天神山小学校の取り組み

高野 正人

内灘町立清湖小学校の取り組み

飯田 淳一

「書写書道教育における今日的課題～全国の実践を受けて～」

—高等学校—

◇第36回全日本高等学校書道教育研究会（神戸大会）参加報告

田中 学

研究協議会Ⅱまとめ

5. 大会に参加して 33

出場 康仁（石川県立飯田高等学校）

坂井 一子（輪島市立町野小学校）

6. 第50回福井県書写書道教育研究大会（鯖丹大会）参加報告 35
7. 石川県書写書道教育連盟のあゆみ 39
8. 平成23年度石川県書写書道教育連盟役員一覧 45
9. 石川県書写書道教育連盟規約 46

平成23年12月8日(木)

第22回

石川県書写書道教育研究大会

下甘田小学校・志賀町文化ホール

大会テーマ

「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育」
— 自ら発見し、学びを深める書写書道教育 —

主催：石川県書写書道教育連盟

後援：石川県教育委員会

：志賀町教育委員会

：石川県私立幼稚園協会

日程

13:15～14:00

受付

13:30～13:50

理事会

14:00～14:45

公開授業
(下甘田小学校)

15:05～15:20

全体会
(文化ホール)

15:25～16:05

研究協議会 I
(文化ホール)

16:10～17:00

研究発表①(小)
研究発表②(高)
研究協議会 II
(文化ホール)

下甘田小学校 (13:30~14:45)

公開授業 [14:00~14:45]

小学校5年 書き初め「平和」

指導者：坂井 雪絵 先生 (志賀町立下甘田小学校)

文化ホール (15:05~17:00)

全体会 [15:05~15:20]

挨拶： 石川県書写書道教育連盟 会長

祝辞： 石川県教育委員会 ・ 志賀町教育委員会

研究協議会Ⅰ [15:25~16:05]

助言者： 谷藤 真喜子 指導主事 (石川県教育センター)

司会： 西脇 良樹 先生 (志賀町立下甘田小学校)

記録： 北野 京子 先生 (津幡町立中条小学校)

研究発表①・②・ 研究協議会Ⅱ [16:10～17:00]

授業実践に向けての具体的手立てを探る ～授業実践から～

① 実践発表《小学校》

- ・七尾市立天神山小学校の取り組み
- ・内灘町立清湖小学校の取り組み

発表者： 石川県書写書道教育連盟 研究調査部

書写書道教育における今日的課題 ～全国の実践を受けて～

② 第36回 全日本高等学校書道教育研究会（神戸大会）参加報告

発表者： 田中 学 先生（石川県立金沢中央高等学校）

司 会： 水上 真由美 先生（石川県立金沢伏見高等学校）

記 録： 黒川 なつき 先生（白山市立蝶屋小学校）

研究発表 I ・ 研究協議会 I 報告

大会参加レポート

研究協議会 I のまとめ

第5学年 国語科書写学習指導案

場 所 5年教室
指導者 坂井 雪絵

- 1 単元名 文字の大きさと配列を確かめよう
- 2 目 標
- ・配列よく書くために必要なことに関心をもつ。 (関心・意欲・態度)
 - ・用紙に対する文字の大きさ、配列よく書くために必要なことを理解する。 (知識・理解)
 - ・用紙に対する文字の大きさ、配列よく書くために必要なことに気を付けて書く。 (技能)

3 指導にあたって

(1) 教材観

本単元では、二文字を半紙に書くときの配列について学習する。その際に、用紙に対する文字の大きさ、行の中心や字間、余白に気をつけて書いていく。用紙に対する文字の大きさでは、用紙の大きさとそこに書く文字数をあらかじめ考慮し、文字の大きさが決定される。行の中心では、文字の中心を知りその文字の中心を行の中心にそろえることに注意する。さらに、字間（文字と文字の間）や余白（用紙の上下・左右の空き）を程よくとることを意識する。

本教材で学習する「文字の大きさと配列」は、あらゆる書く場面で意識するポイントとなる。したがって、「文字の大きさと配列」は、日常に生かしていくことが大切である。

(2) 児童観

準備や片付けの面倒さから、毛筆を嫌がる児童が多かった。また、筆や硯の始末がしっかりできないことから、筆先が整わず作品がうまく書けない児童もいた。用具を大切に扱う事を指導している。

5年生になってから毛筆の作品の掲示は、試し書きと清書を並べて貼るようにしている。自分の文字の変化が目に見えるので、練習への意欲につながっている。

11月の児童集会での学年発表では、秋をテーマとした自作の俳句を毛筆で書き紹介したり、10人でリレー書道をして見せたりした。リレー書道は、一画ずつ友だちとつないでいくことで連帯感を味わったり、自分が担当した画の筆使いを集中して練習することで、始筆終筆に対する意識が高まったりして、児童にとってはよい体験であった。

(3) 指導観

本単元は、二字の作品をバランスよく書くときの配列について学習する。

1時では、「平和」を題材とし、配列よく書くための4つのポイント（①用紙に対する文字の大きさ ②行の中心 ③字間 ④余白）について知る。その中で特に①用紙に対する文字の大きさについて取り上げ、文字の大きさは、一字目の一画目の大きさで決まること

に気づくようにする。そのために、大・中・小と大きさを変えた「平」の一面目の文字パーツを用意する。それにあわせて二画目以降を書いて見せ、一面目の大きさで「平」の大きさが決まってしまうこと、ひいては、「平和」の配列も決まってしまうことに気づくようにしたい。その指導の中で、字間・余白について理解するようにする。

2時では、「信念」を題材として、二字を配列よく書く練習をする。児童は、1時で学んだ一面目の大きさに気をつけて書くだろう。しかし、「信」は、人偏は思った大きさで書けても、傍の「言」の部分は、横画の多さから縦に長くなってしまふ事が予想される。また、「念」は、上下2つの部分からなるので、縦に長くなりやすい。そこで、画の太さや間隔、部分の形に目を向けさせる。画の太さを変えた文字パーツや「今」「心」など「念」の部分パーツを使い、横画がほぼすべて細くなっていることに気づいたり、念の部分の形の変化に気づいたりできるようにしたい。それらに気をつけて書くことで、文字の大きさが揃い、字間や余白も生まれることに気づくようにする。

3時では、1・2時の学習をふり返り、清書に生かして作品を仕上げる。

4 指導計画

時	主な活動	○支援 ◆評価
1	<p>二文字を半紙に書くときは、どんなことに気をつけられ ばいいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の大きさ・行の中心・字間・余白を知る。 一面目の大きさに気をつけて「平和」を書く。 <p>4つのポイントがある。一面目の大きさが大切。</p>	<p>○文字の大きさをそろえ配列よく書くためには、一面目の大きさが大切であることに気づくようにする。</p> <p>◆配列よく書くために必要なことに関心をもつ。 (関心・意欲・態度)</p>
2	<p>「信念」を配列よくするためには、どんなことに気をつけ ればいいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 大きくなってしまふ部分の原因を考える。 画の太さや間隔に気をつけて「信念」を書く。 <p>4つのポイント。画の太さや間隔に気をつけて。</p>	<p>○大きさをそろえるためには、画の太さや間隔が大切であることに気づくようにする。</p> <p>◆用紙に対する文字の大きさ、配列よく書くために必要なことを理解している。 (知識・理解)</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> 前時で学習したことをふり返る。 <p>「信念」を配列よく清書しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の大きさ・行の中心・字間・余白に気をつけて、「信念」を清書する。 <p>4つのポイントに気をつけて書けたよ。</p>	<p>○文字の大きさをそろえるために学習したことを思い出すようにする。</p> <p>◆用紙に対する文字の大きさ、配列よく書くために必要なことに気をつけて書いている。 (技能)</p>

5 本時の学習（1／3時）

(1) めあて

配列よく書くために必要なことに関心をもつ。

(2) 評価規準

配列よく書くために必要なことに関心をもっている。（関心・意欲・態度）

(3) 準備 「平和」の作品例, 「平」の文字パーツ（大・中・小）, 練習用紙, 半紙

(4) 展開

過程	学習活動と思考の流れ	○支援 ◆評価 【評価方法】
つ か む 15' 学 び 合 う 25' ま と め る 5'	<p>1 課題について考え, 自己批評する。</p> <p><どの作品がいいでしょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさがちょうどよいから② ・まわりの空きも同じくらいだから②。⇒「余白」 ・字の間が詰まり過ぎていないから②。⇒「字間」 <p>・ぼくは, 下の余白がないな。</p> <p>・用紙に対して, 文字をバランスよく並べることを配列というのだな。</p> <p><どうしたら配列よくかけるでしょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・先のことを考えて1画目を書く。 ・平の一画目の大きさと位置に気をつける。 ・一画目が大きすぎるから, 短く書こう。 <p>3 練習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>文字の大きさと配列に気をつけて書こう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・一画目の始筆の位置がわかる練習用紙を使おう。 ・一画目の位置と大きさのわかる練習用紙で。 ・文字の大きさと位置がわかる練習用紙を使おう。 ・半紙に書いてみよう。 <p>4 相互評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きさのバランスが良くなっているよ。 ・下の余白がちょうど良くなったよ。 ・中心が揃ったよ。 <p>5 まとめをし, 次時のめあてをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>配列よく書くための4つのポイントがある。4つがそろうためには, 一画目の位置と大きさが大切だ。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・次は, 大きさと配列に気をつけて「信念」を書こう。 	<p>○支援 ◆評価 【評価方法】</p> <p>○配列のよい作品, 平が大きすぎる作品, 字間, 余白の無い作品を提示し, 比較しながら配列よく書くためのポイントに気づくようにする。</p> <p>○「文字の大きさと配列」についての話し合いの中で, 余白・字間にも触れる。</p> <p>○「平」の文字パーツを使い, 一画目の大きさや位置によって, 平の大きさや全体のバランスまできまってしまう事に気づくようにする。</p> <p>○試し書きを配列よく書くという視点で自己批評し, 課題を見つけるようにする。</p> <p>○自分の課題にあわせて, 練習用紙を選択するようにする。</p> <p>◆配列よく書くために必要なことに関心をもっている。（関心・意欲・態度）【観察・作品】</p> <p>○試し書きと比べ, よくなった点さらに気をつけたらいい点を伝え合う。</p> <p>○次時は, 「大きさと配列」に気をつけて「信念」を書くというめあてをもつようにする。</p>

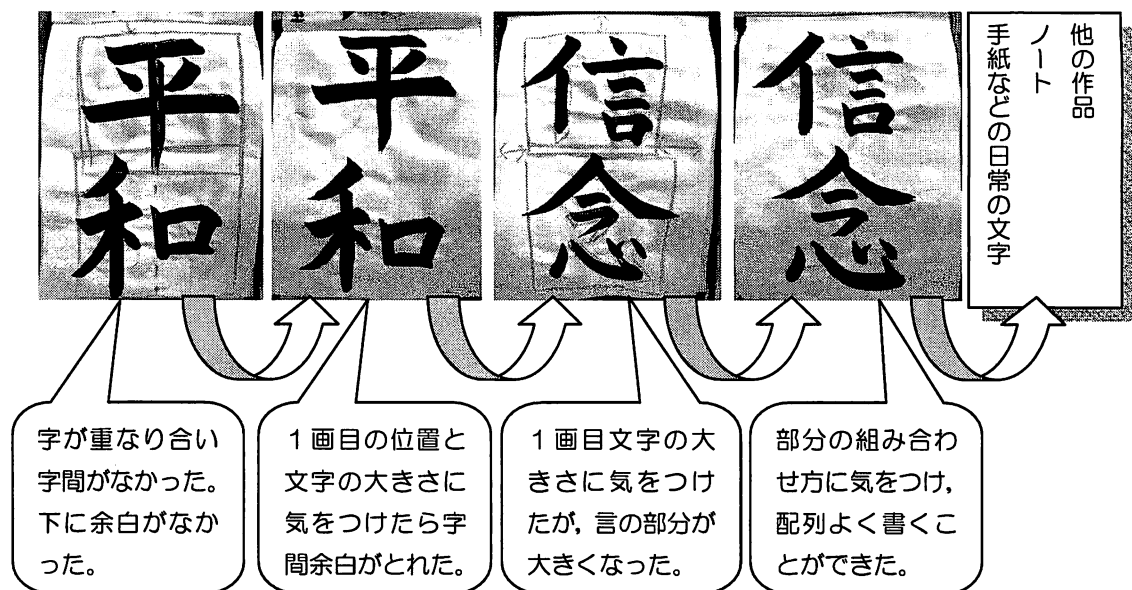
6 授業を終えて

お手本を書きうつす作業をただ繰り返すだけではなく、書写においても「考え」→「気づき」→「学び合い」→「活用する」（他の作品や硬筆、ノートや手紙といった日常へ）という他教科と同じような学習過程が必要ではないかと考えている。そのためには、児童が自ら課題を見つけるための視点が必要である。今回の授業では、配列よく書くための視点に気づかせるため、4種類の作品例を比較するという手立てをとった。

《成果》

4つの作品例から、文字の大きさ、中心、余白についての意見が児童の中から出てきた。自己批評では、一人一人が4つの視点をもとに自分の課題に気がつくことができた。

試し書きとまとめ書きの比較から児童が課題である配列に気がついていることがうかがえる。また相互評価で、友だちが自分の課題として取り組みよくなった点について、見つけて評価し合う事ができていた。



《課題》

整理会でもご指摘があったが、4つの作品例の中の「よい例」が唯一の手本でそれ以外は、「悪い作品」という印象をもたせるべきではない。手本のよさを取り入れることと一人一人の持ち味を消すこととは異なる。手本の中の何に気づき、何を自分のものにするかという自覚が大切であり、そのよさへの方法を手に入れ、書きたいように書くことができる力がつけることが国語科書写の役割であろう。そのためにも、単に「文字の大きさがちょうどよい」という見方にとどめず、そのことによって見る人にどのような印象を与えるのかを児童の言葉で語らせ、その価値に気づかせること※「手本の価値へのまなざし」が本授業でも必要であった。今後は、整理会でいただいた貴重なご意見を生かし、児童が書きたいように書ける喜びを味わえるような授業を目指したい。

※本連盟副会長 金沢大学 折川司先生「小学校国語科書写においていわゆる手本の価値を理解することの重要性」より

研究協議会 I (授業整理会)

授業者	坂井 雪絵	先生	(志賀町立下甘田小学校)
助言者	谷藤 真喜子	指導主事	(石川県教育センター)
司会	西脇 良樹	先生	(志賀町立下甘田小学校)
記録	北野 京子		(津幡町立中条小学校)

◇授業者より

- ・書写の時間いつも悩むことは、子どもたちに気付かせたい、学び合いをさせたいたくさん練習をさせたい、批正もさせたいとやりたいことが多いことである。
- ・本時でもたくさん気付かせたいことがあったが、特に「平」の一画目の始筆に気付いてほしかった。たくさん書かせたかったので、短い時間で気付くように点画ピースを使ったりしたが、25分かかった。もっとコンパクトに授業を進められなかったか。
- ・課題を板書するのを忘れ、最後に提示することになった。

◇質疑応答より (→は、授業者より)

- ・「平和」を配列よく書くために①大きさ・②中心・③字間・④余白と4つのポイントがあった。また、キーワードとして、一画目の始筆があった。坂井教諭は、書写の時間にプレゼンソフトを使って授業をしている。本時では、自己批正もあり、最後に相互評価もあり、よかった。
- ・ネームプレート、作品掲示の工夫がよかった。気になったことは、始筆や終筆の筆遣いや筆をたてて書いていない子がいたことである。
- ・マイクのおかげで、児童への個別の語りかけが伝わってきてよかった。本時のポイントを言うときに字間を後から付け足すように③に書いたが、④でよかったのではないか。
→子どもたちが下過ぎると言ったのを無理に余白や字間につなげた。自然なつなげ方ではなかった。
- ・書写用語を大切にしながら本時のポイントを説明している点がよかった。たくさん練習させたいという思いは同じ。余白に払いの練習をさせている。
前時の振り返りで、同じことを何度も言っているのでは、少ししぼれば、5分くらい練習時間を確保できたのではないか。
次時の課題は、いつ持たせるのか。(「平和」の試書は、いつしたのか)
→いつもの書写の時間は、前時の最後に課題を持たせず、試書をしている。
- ・一人一人の子どもに気付かせることは、学び合いには大切。4つの例は、ポイントにつながりよかった。説明した後に1回書かせ、自分はどうに近いか考えさせてもよかった。「平」の一、四画目の広さや「和」の二画目を右上がりにもすることも配列に関わる。また、太く書いてしまう子にすかさずアドバイスして太さを教えるのは難しい。書かせて気付かせるの繰り返しは、大切。

- ・赤いチョークで4つのポイントに照らし合わせて批正することで、子どもたちはたくさんことに気付いていた。
A B C Dの4枚の「平和」の「いいのはどれ？」ではなく、なぜよくて、なぜ悪いのかわけも言わせるとよかった。Bは、Aをそのまま拡大したもので、文字のバランスとしては、Aと同じ。個人的には、Bも好き。
試し書きより、上達が見られた。一画目が短くなったからといって、全体がよくなったとは限らない。字間、余白のために字形が崩れた面もあった。
→本時の課題は、配列だったので、Bは元気がよいが、焦点がぼけないようにしたかった。あとで、どれが配列がよいかきいたが、子どもの言葉でまとめればよかった。
- ・たくさん工夫がある授業だった。手書き文字に魅力を感じる。
なぜ、B C Dがいけないのか、理解していたか。配列を整えるとなぜいいのか理解していたか。
→子どもの言葉で言わせていきたい。言わせていくと、言えるようになると思う。
- ・書写指導をしていて、難しいと感じることは何か。
→グループで話し合わせたい。時間の配分が難しい。

◇助言者より

- ・45分間で何をするのが大切。本時は、関心・意欲がねらいなので、配列の導入としては、この流れでよい。
- ・低学年は、一文字。中学年は、二文字の相互関係。高学年は、用紙全体の文字群を考える。一文字のバランスが余白につながるので、思考を要する。
- ・課題に自分で気付く手立てとして、自己批正の観点が明確でよかった。4つの例で、Bでは、なぜだめだと感じるのか。用紙全体を考えるとどうか考えさせる。
- ・一画目の始筆が大切は、教科書にもあるが、子どもは、気付きにくいので、さっと教師が示す。深く考えずに選んだが、一画目の始筆を間違えると大変なことになるとわかった。
- ・用紙の選択は、考えさせる場面であった。一人一人回りながら、どうしてだめだったのか考えさせ、アドバイスしている点がよかった。
- ・相互批正としての言語活動がよかった。相手のよいところを評価してあげる。自分ではできないけれど、相手のよいところを見つけることが大切。
A児は、相互批正では言えなかったのに、みんなの話を聞く中で、全体の場で相手のよいところを話すことができた。

研究発表Ⅱ・研究協議会Ⅱ報告

実践発表レポート

研究協議会Ⅱのまとめ

第22回石川県書写書道教育研究大会小学校部会

七尾市立天神山小学校 高野 正人

平成23年7月15日(金), 5年1組の実践から

- 1 単元名 文字の組み立て方と穂先の動きを確かめよう
 - 2 本時のねらい
 - ・ たれの下部分を少し右にずらして「原」を書けるようにする。
 - 3 本時の評価規準
 - ・ たれと下の部分がぶつからないように、右にずらすことを理解している。【知識・理解】
 - 4 準備 「がんだれ」を書いた用紙3枚, たれの仲間, 「草原」を書いた半紙, 朱墨
 - 5 授業の流れと児童の反応
- (1) 「原」という字の組み立てを考える
- たれの仲間では, 「原」だけでなく「店」「歴」「病」「屋」「序」「底」などがあることを示す

「原」というがんだれのある字は, どのように組み立てて書けばよいだろう

- がんだれの下字ががんだれにぶつかる, ぶつからない, 大きく右にずれている, の3種類を指導者が書くのを見せながら組み立てを考える

<反応>

- ・ たれの下にくる字を大きくしたら書けないぞ
- ・ 払いに重ならないようにした方がいい
- ・ たれの下にくる字は中心より少し右にずれるぞ

たれと下の部分がぶつからないように, 右にずらして書くことを理解し合う

(2) 半紙で「原」を練習する。

- 本時は, ねらい達成のために, 草原ではなく「原」だけの練習とする

* たれの下部分を少し右にずらすようにする
* 払いの穂先は左を通る

- 朱墨を使って個別指導に回る
- 字の大きさ・太さ, 形(特に右上がり), 線の美しさ(打ち込み・折れ・止め・払い・はね), ていねいさなどを指導

(3) ふり返り

- 各自の作品を鑑賞し合い, みんなで拍手し, がんばりを認め合う
- 最終ゴールは「草原」であることを, 中心線入りの「草原」を見せ, 次時への意欲と確かな理解を高める。

授業整理会で出された意見

- ・ がんだれの下の字ががんだれにぶつかる，ぶつからない，大きく右にずれている，の3パターンを自ら書いて，子どもにどれがよいかを考えさせるのが分かりやすく効果的だった。
- ・ 普段私たちは，一方的な授業をしてしまっているけれど，このように子ども達にじっくり考えさせ，気づかせる授業が大切だと感じた。
- ・ 「草原」を書かせるのではなく，「原」にだけ絞って練習させたのは子どもの意識が高まった。
- ・ 「打ち込み」「払い」「止め」などの用語が子ども達からどんどん出てきたのに驚いた。
- ・ 考える時間に20分かけていたので書く時間は大丈夫かなと心配したが，押さえるべきをきちんと押さえての時間配分であり，書く学習の20分は短くなかった。
- ・ いくつかのたれの仲間を見せて広げていくことは，理解を助け，発展につなげることができた。
- ・ 「原」一文字を考えさせたり練習させたりする中で，「ゴールは草原」であると見せる・可視化させる方法をこれから見習っていきたい。
- ・ ふり返りで，作品を見せ合って拍手をするのは大変素晴らしいことだ。次への意欲につながる。苦手意識のある子も拍手をもらえてとても嬉しそうだった。

<課題>

- ・ 書写の授業での板書は，横書きではなく縦書きにすべきではないか。
- ・ 筆順を含めて，左利きの子への対応・指導はどうすべきか
- ・ 効率的な後片付けの方法はどうすればよいか。

七尾市立天神山小学校第5学年1組 書写学習指導案

指導者 高野 正人

場所 4階 5年1組教室

1 単元名 文字の組み立て方と穂先の動きを確かめよう

2 目標

- ・ 関心をもって、たれやかまえのある文字の組み立て方の特徴を知ろうとしている。
【関心・意欲・態度】
- ・ たれのある文字では、下の部分を右にずらして書くことを、かまえのある文字では、内側をかまえの中に収めて書くことを理解している。
- ・ たれのある文字では、左払いの穂先の動きを、かまえのある文字では、折れの穂先の動きを理解している
【知識・理解】
- ・ たれのある文字の組み立て方と左払いの穂先の動きに気をつけて「草原」を書いたり、かまえのある文字の組み立て方と折れの穂先の動きに気をつけて「仲間」を書いたりしている。
【技能】

3 指導にあたって

(1) 単元について

今までの学習で、配列（字配り）や字の大きさ・太さ、形（特に右上がり）、線の美しさ（打ち込み・折れ・止め・払い・はね）、ていねいさなどを指導したり、鑑賞させたりして学習している。本単元では、これらを生かしながら、たれのある文字では、下の部分がたれとぶつからないように、下の部分を右にずらして書くことを、かまえのある文字では、内側をかまえの中に収めて書くことをしっかりと理解させ、自分なりにこのことを意識させながら取り組ませたい。

そして、たれの仲間では、「草原」だけでなく「店」「歴」「病」「屋」「序」「底」など、かまえの仲間では、「仲間」だけでなく「関」「国」「医」「区」「画」「囲」など、自分で書いてみたい字にも挑戦させてみたい。

(2) 児童について

男子12名、女子20名、計32名のクラスである。5年生は、指示がよく通り、意欲的に取り組む子が多い。各種大会にも積極的に応募したり参加したりする子たちなので、たれやかまえについての留意点にすぐに気づき、意欲的に取り組んでくれるものと期待している。

(3) 指導観

「草原」の原という文字は、右側にあまり出てはいないが、全体の中心よりも右に来ることを意識づけるために、草と原の縦棒が一直線上にまっすぐ位置し、その分たれに下の部分がぶつかっている作品を例示する。また、「仲間」の間という文字についても日を大きく書いてもんがまえにぶつかっている作品も事前に書いて示したりして気づかせていきたい。

子ども達が作品に挑戦しているときは机間指導し、朱書きで示し、ねらいに迫っていききたい。

4 指導計画（総時数 6時間）

		目標と学習活動	評価規準（評価方法） ① 関心 ② 知識・理解 ③ 技能
一	毛 2	○ たれのある文字の組み立て方を理解して書くことができる。	① たれのある文字の組み立て方を知り，学習に関心をもっている。 （発言・つぶやき） ② たれと下の部分がぶつからないように右にずらして書くことを理解している。 （練習） ③ 草の払いの位置より下の部分を右にずらして書いている。（清書）
	硬 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「店」「歴」「病」「屋」「序」「底」を見て，たれのある文字の組み立て方を知る。 ・ 毛筆で「草原」を書き，たれのある文字の組み立て方や左払いの穂先の動きを確かめる。 ・ 毛筆の学習を生かし，硬筆で「草原」「順序」「海底」を書く。 	
二	毛 2	○ かまえのある文字の組み立て方を理解して書くことができる。	① かまえのある文字の組み立て方を知り，学習に関心をもっている。 （発言・つぶやき） ② 内側をかまえの中に収めて書くことを理解している。（練習） ③ 門の中に適切な大きさに日を書いている。（清書）
	硬 1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「関」「国」「医」「区」「画」「囲」を見て，かまえのある文字の組み立て方を知る。 ・ 毛筆で「仲間」を書き，かまえのある文字の組み立て方や折れの穂先の動きを確かめる。 ・ 毛筆の学習を生かし，硬筆で「仲間」「区画」「周囲」を書く。 	

5 本時の学習（第一次第1時）

- (1) ねらい たれの下部分を少し右にずらして「原」を書けるようにする。
- (2) 評価規準 たれと下の部分がぶつからないように、右にずらすことを理解している。
【知識・理解】
- (3) 準備 「がんだれ」を書いた用紙3枚、「草原」を書いた半紙、朱墨
- (4) 展開

時	学 習 活 動	・指導上の留意点 ◆支援 評価
5	<p>1 課題をつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「原」というがんだれのある字は、どのように組み立てて書けばよいだろう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ がんだれの下に字がくるぞ ・ 払いをきれいにするのがむずかしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「原」と書いた用紙を示す。
15	<p>2 考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ がんだれの下の方ががんだれにぶつかる、ぶつからない、大きく右にずれている、の3種類を指導者が書くのを見ながら組み立てを考える ・ たれの下にくる字を大きくしたら書けないぞ ・ 払いに重ならないようにした方がいい ・ たれの下にくる字は中心より少し右にずれるぞ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>・ たれと下の部分がぶつからないように、右にずらして書くことを理解し合う</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「がんだれ」を書いた用紙を3枚準備しておく。 ◆ 提示した「原」の半紙を縦に半分折って、中心が少し右へずれていることに気づかせる。 ・ 中心線の入った、いく種類かのたれを書いたものを見せて、さらに意識付けを図る。 ・ 終わりに、自分の作品を縦に折って確認してみることをおさえる。
20	<p>3 練習する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 半紙に「原」を練習する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>* たれの下部分を少し右にずらすようにする</p> <p>* 払いの穂先は左を通る</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個に応じて、のびのび書かせる。 ・ たれと下の部分がぶつからないことに視点を当てて、個別の評価や指導をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>たれと下の部分がぶつからないように、右にずらすことを理解している。 【知識・理解】</p> </div>
5	<p>4 ふりかえる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 半紙を縦に半分折って確認する。 ・ 次時は、「草原」を消書することを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで拍手し合い、がんばりを認め合う。 ・ 中心線入りの「草原」を見せ、より意識を高める。

児童の鉛筆の持ち方についての一考察

内灘町立清湖小学校 飯田淳一

1. はじめに

今年度4月、2年生担任になってまず、我がクラスの児童の字を書くスピードの遅さが気になった。もちろん個人差もあるが、極端に遅い児童が9人いた。鉛筆の持ち方がおかしい児童や、ひらがなの筆順を間違えて覚えている児童も多く、その都度指導してきた。漢字についてもなかなか覚えられない児童が多く、定着もかなり悪かった。しかし、1学期に行った視写や漢字の反復練習の成果か、9月頃には書くスピードについては気にならなくなった。漢字テストの点数も最近は以前に比べてかなり伸び、担任としてうれしく思っている。

ところが、10月に県硬筆書写コンクール、郡市と校内の書写作品展の練習を始めたあたりから、整った字を書ける児童がとても少ないこと、そして、鉛筆の持ち方がおかしい児童がとても多いことが気になり出した。このときは、指導書に附属している書写のコンテンツを何度も見せながら鉛筆の持ち方を指導したが、一人一人をチェックできていなかったため、なかなか改善はみられなかった。

現行指導要領では、運動としての書くことが謳われている。例えば速く書くためには書き手が筆記用具を自在にコントロールできることが重要となる。鉛筆をコントロールしやすい持ち方を身につけさせることは、整った字を書こうとする時にも有効であろう。

そのためには、まず教師が児童一人一人の鉛筆の持ち方を把握することが大事であろう。そしてそれを基に、それぞれの児童に適した指導を行うことで、字の形も整っていきやすいのではないかと考えた。

その際、書く様子は動画で撮影して児童自身に見せることで、筆記用具の望ましい持ち方について児童に考えさせ、気づかせることができるのではないかと、またひらがなの正しい筆順についても他と比べながら見ることでしっかりと認識させることができるのではないかと考えた。

2. 調査の目的

児童が字を書く時の鉛筆の持ち方を撮影し、その傾向からチェック方法を考え、指導に生かす。

3. 調査の方法

2年生児童28名の書く様子を、2方向（横と正面）から、動画で撮影する。その後、鉛筆の角度、指の形から類型化し、考察する。ただし右利きの児童のみ対象とする。（23人分）

用紙は、筆順についてもチェックを行うためひらがなを中心としたものを用意する。

なお、撮影にはパソコン上のデータ作成の容易さから、今年度清湖小に配置されたカメラ付きのタブレットPCを使用する。（写真1）

（解像度は640×480ドットのWMVデータとなる。）



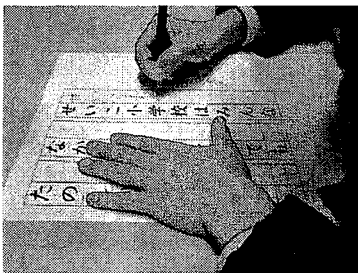
写真1 撮影の様子

4. 調査結果

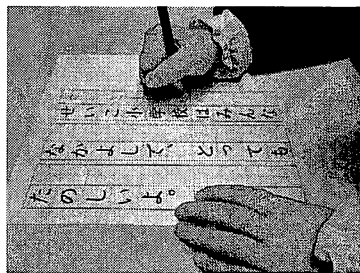
(1) 鉛筆の持ち方と角度、書き順のミスについて（右利き23人分）

旧	人数	番号	鉛筆の持ち方				鉛筆の角度		書き順ミス					姿勢		
			空き	親指		人差し指	正面から	横から	せ	校	な	よ	も		計	
1	1	1	無	伸	下向き			45	85	△		△		△	3	△
2	2	3	無	曲	下向き	反	握る	80	100					△	1	
1	3	4	無	曲	下向き		握る	80	95	△	△	△			3	△
1	4	5	無	曲	下向き	反		45	95					△	1	△
1	5	6	無	曲	下向き	反		50	95		△				1	
1	6	8	無	伸	下向き			50	70					△	1	
2	7	9	無	曲	下向き	反		80	85						0	△
2	8	10	無	曲	下向き			45	90						0	
2	9	11	無	曲	下向き	反	握る	80	95						0	△
2	10	12	有	伸	水平		握る	60	90						0	
1	11	13	無	曲	下向き	反		80	80	△		△	△		3	
1	12	14	無	伸	水平			70	75			△	△	△	3	△
2	13	15	無	曲	下向き		握る	60	85						0	
2	14	17	無	曲	下向き	反		65	60						0	
2	15	18	有	伸	水平			60	90			△			1	
1	16	19	無	曲	水平			45	80						0	
2	17	21	無	曲	水平		握る	70	100				△		1	
1	18	22	無	曲	下向き	反		50	75						0	
2	19	23	無	伸	下向き		握る	50	95		△				1	
1	20	24	有	曲	下向き			50	85			△		△	2	△
2	21	25	有	伸	水平		握る	80	75			△		△	2	
1	22	27	無	曲	下向き	反		50	70		△	△			2	
2	23	28	空けすぎ	伸	水平			45	95				△		1	
								60.4	85.4	3	4	8	4	7		

(2) 個別の写真（横から撮影したもの）



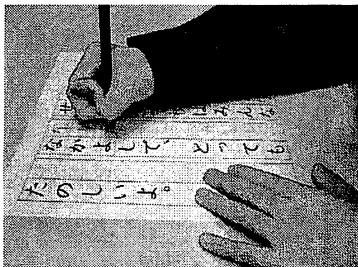
番号 1



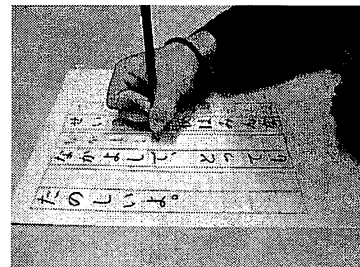
番号 3



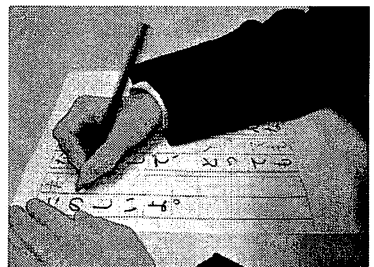
番号 4



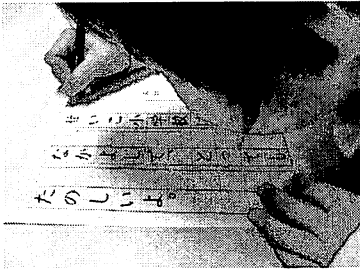
番号 5



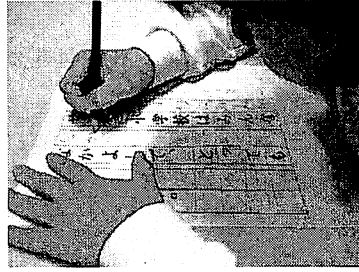
番号 6



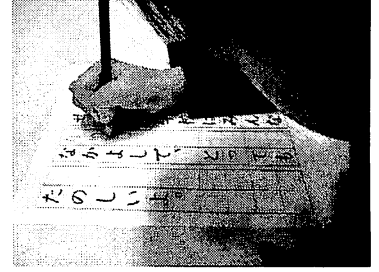
番号 8



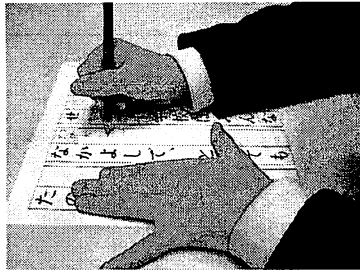
番号 9



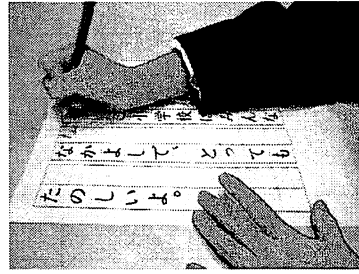
番号 10



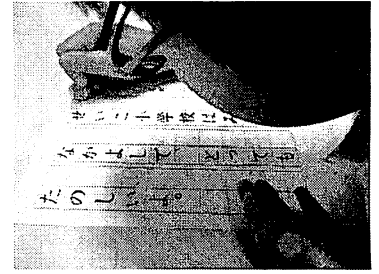
番号 11



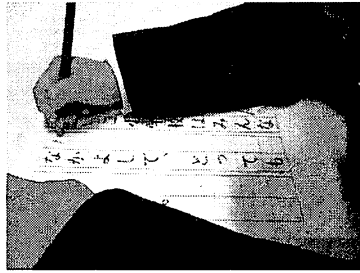
番号 12



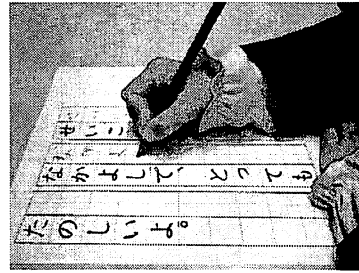
番号 13



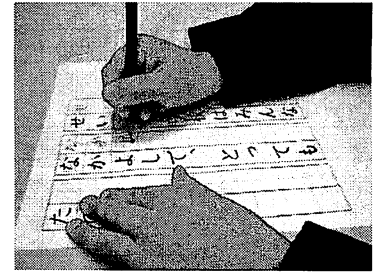
番号 14



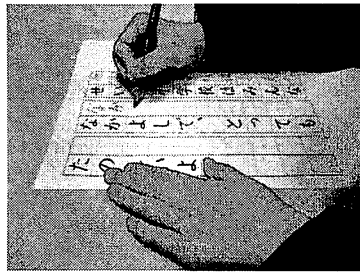
番号 15



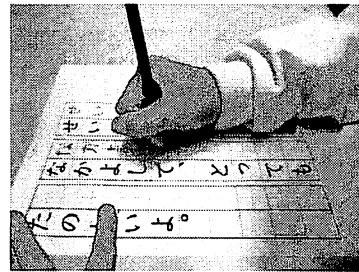
番号 17



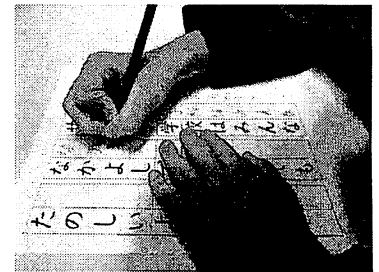
番号 18



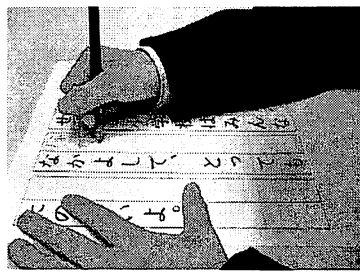
番号 19



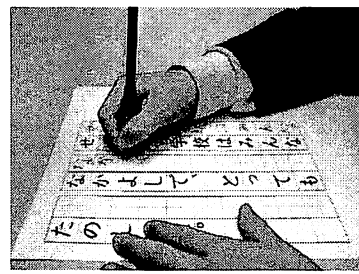
番号 21



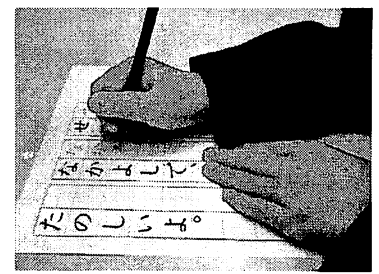
番号 22



番号 23



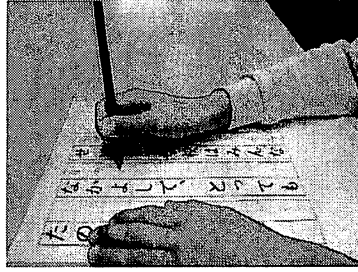
番号 24



番号 25

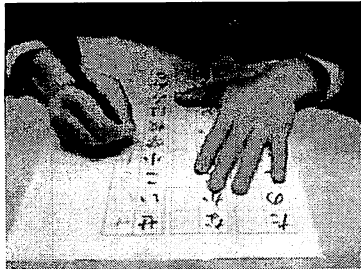


番号 27



番号 28

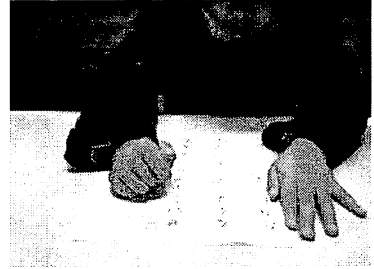
(3) 個別の写真 (正面から撮影したもの)



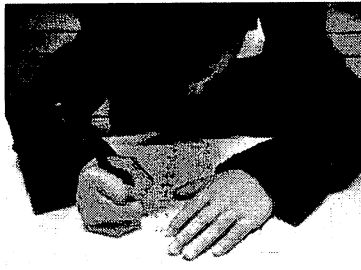
番号 1



番号 3



番号 4



番号 5



番号 6



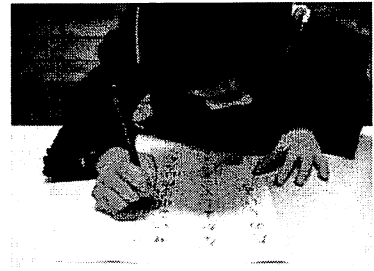
番号 8



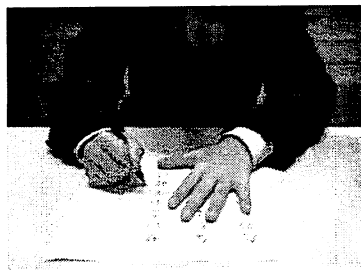
番号 9



番号 10



番号 11



番号 12



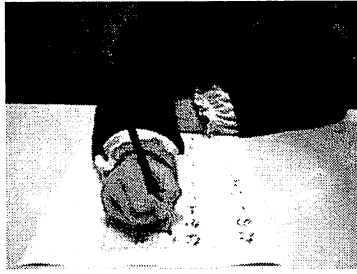
番号 13



番号 14



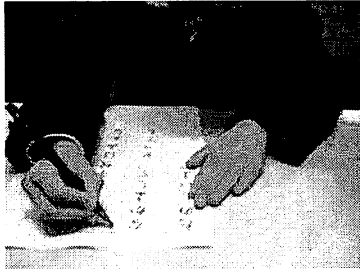
番号 15



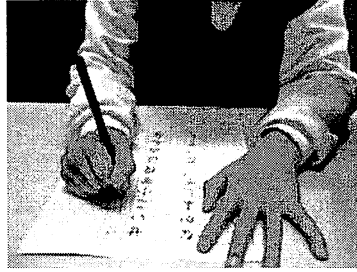
番号 17



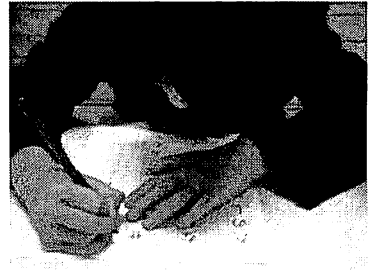
番号 18



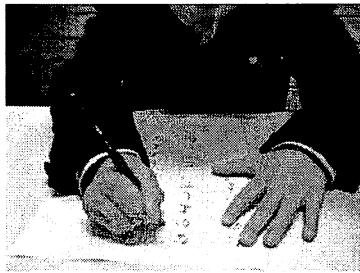
番号 19



番号 21



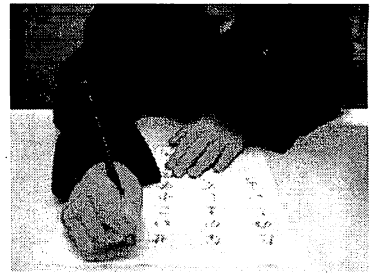
番号 22



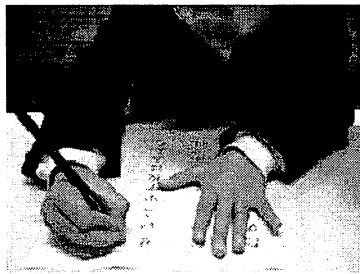
番号 23



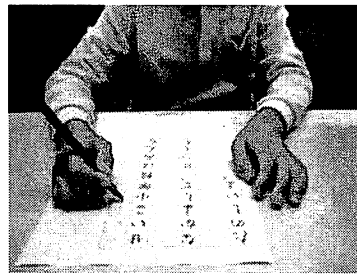
番号 24



番号 25



番号 27



番号 28

5. 考察

(1) 鉛筆の持ち方について

結果を見てわかるように、鉛筆をほとんど垂直に立てて書いている児童が23人中20人とほとんどであったことに驚いた。また人差し指の付け根に鉛筆があたっている児童もほとんどおらず、親指の付け根で鉛筆をはさみ、握りしめるように持っている児童が23人中8人もいた。親指を不自然に曲げて持っている児童は15人。親指が伸びていても鉛筆の先の方を持ちすぎ下に下がっている児童も3人いた。親指が曲がり人差し指に力が入りすぎて反ってしまう

児童も多く、9人である。親指が曲がっていない児童は人差し指の反りは見られなかった。

教科書に載っている鉛筆の持ち方をしている児童は0に近く、これでは鉛筆を自在にコントロールできているとは言い難い。鉛筆を90度以上の角度で書いている児童は鉛筆の先が見えず無理にのぞき込むために姿勢がくずれてしまっている児童も7人いた。鉛筆をもっと傾け、親指と人差し指が自然に伸びる状態で持つことが必要である。鉛筆に人差し指と中指をかけ、薬指まで使って持っている児童も5人いた。

以上から、持ち方の状態をチェックするために、以下の5点をチェックすればよいのではないだろうか。なお、鉛筆の角度は60度前後が適当であろう。

○		×
3点で鉛筆を支えている	←→	3点で鉛筆を支えていない
親指が自然に伸びている	←→	親指が不自然に曲がっている
親指が水平である	←→	親指が下がっている
人差し指が自然に曲がっている	←→	人差し指が反っている
人差し指が鉛筆の真上にある	←→	人差し指が鉛筆の真上にない

撮影の時、「ふだんの持ち方でいいの?」と確認してくる児童が数名いた。これは書写の授業中に口やかましく言われる持ち方は理解しているが、ふだんは違うということだろう。

(2) 筆順について

筆順の間違いと鉛筆の持ち方にはほとんど相関は見られなかった。ひらがなの筆順の間違いは「な」「も」「よ」「せ」の順が多かった。間違っして書いている児童から「正しい書き順は知っているけど、ついくせで書いてしまう」といった声も聞かれた。

下の表は鉛筆の角度による人数の散らばりぐあいと、筆順の間違いをした人数と間違えた数を書き入れ表したものである。表中のマスの中の数字1個で一人分、数字は間違えた数を表している。全体に散らばっている感じである。

											総数	ミス人	ミス計	ミス率	
正面から見た角度	90														
	85														
	80				2	3	0	0	3	1	6	4	9	2.25	
	75														
	70				3					1	2	2	4	2	
	65	0									1	0	0	0	
	60						0	1,0			3	1	1	1	
	55														
	50				1,2	0		2		1,1	6	5	7	1.4	
	45						0,0	3	1,1,0		6	3	5	1.67	
40															
		55	60	65	70	75	80	85	90	95	100	105			
		横から見た角度													
	総数	1	2	3	3	4	6	3	2						
	ミス人	0	2	2	1	2	3	3	2						
	ミス計	0	3	5	3	5	3	5	2						
	ミス率	0	1.5	2.5	3	2.5	1	1.7	1						

6. その後の実践と今後に向けて

今週の書写の時間に撮影した動画を50インチのテレビで大きくを表示して見せた。同時に教師の書いている様子を撮影した動画も表示させ、違いを比べさせた。映像で見ると視点が固定されているので、実際に見せる時より比較がしやすく、違いは容易にわかる。自分の撮影された動画と比べて、鉛筆の角度の違いに改めて驚いていた児童がほとんどだった。動画から取り込んだ静止画は児童に配り、確認もさせた。

自分の書いている様子を多少緊張しながら動画として撮影された経験から、鉛筆の持ち方について、気をつけようと意識し始めた児童も多いようである。これは児童に聞いたわけではないが、次の日の国語で作文を書いているときの鉛筆の持ち方に改善が見られている児童が何人も見られた。教師側も個々の児童の傾向がわかったので、個別の指導がしやすくなった。

教師側があきらめないで、比べて見せて意識させることでだんだんと変わっていくのではないだろうか。

また、漢字の書き取りで、再三注意しても「はね」を書かない児童がいるのだが、これははねが書きにくい持ち方をしているようにも思える。今後は漢字のくせと鉛筆の持ち方に焦点を当ててみたい。

最後に、すぐには変わることはないかもしれないが、これまでのくせのある鉛筆の持ち方から、望ましい持ち方で正しく整った字を書くことに児童が自分で意識して変わって欲しいと願っている。

第36回全日本高等学校書道教育大会新潟大会 報告

石川県立金沢中央高等学校

教諭：田中 学

大会テーマ「紡ぎ、織り成す心模様 ～今、深化する書教育～」

会期 平成23年11月17日(木)～18日(金)

今回の学習指導要領の主な改訂事項…「言語活動の充実」と「伝統や文化に関する教育の充実」

—11月17日(第1日目)—

・研究授業

「気分はデザイナー！～ふるさと新潟 観光PRポスターを書でデザインしよう」

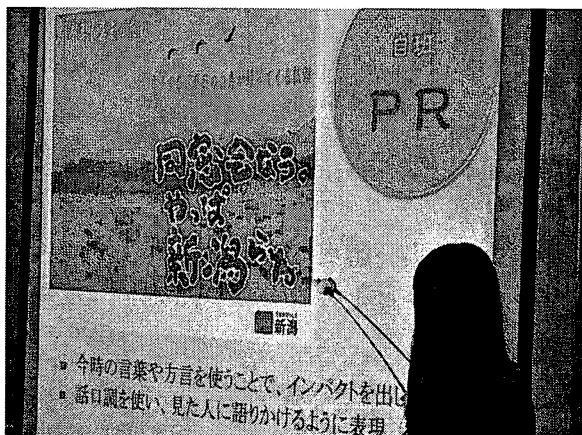
＜新潟県立新潟商業高校 五十嵐一峰氏の授業実践＞

～今後の書を考えていくうえで、時代の感性にあった表現を模索していくことも重要という考えに基づいての授業～

<単元の目標>

1. 「デザインとしての書」の学習を通して、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組む。
2. 「デザインとしての書」の表現と鑑賞を通して、表現の諸要素を生かし、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫する。
3. 「デザインとしての書」の効果的な技能を身につける。
4. 「デザインとしての書」の鑑賞を通して、現代に生きる書表現のよさや美しさを創造的に味わう。

授業風景



<指導と評価の計画>

時間	ねらい・学習内容	評価方法等
第1次	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元の学習内容を知る ・デザインとしての書について理解する ・プリントに手本を表現する 	観察
第2次	<ul style="list-style-type: none"> ・字形について理解する ・イメージと線質との関係について理解する 	観察、作品
第3次	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い 写真を選び、キャッチコピー案を検討する。 どの文字を筆で書いて、どの文字を活字にする かを話し合う 	観察
第4次	<ul style="list-style-type: none"> ・相互批評しながら表現する ・清書する 	観察、作品
第5次	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンをする ・相互批評する <p>話し合いにより、字形・構成など再検討する</p>	観察、批評シート
第6次	<ul style="list-style-type: none"> ・構成直し→最終決定案をまとめる 	観察、作品

手順～フォトショップを使ってみよう…他教科との連携

1. フォトショップを開く
2. 写真の編集と補正
3. 必要な写真と筆文字ファイルをひらく。→ファイル開く
4. 筆文字ファイルから筆文字だけを切り抜く
 - ①筆文字ファイルを開く
 - ②自動選択ツールを選ぶ
 - ③線の部分でクリック
 - ④選択範囲→近似色を選択
 - ⑤・色をつける場合は…
 - 編集→選択範囲の塗りつぶし→使用のところをカラーに→色を選ぶ
 - ・ふちどりをする場合は…
 - 文字全体を選択して→編集→選択範囲の境界線を引く→色を選ぶ→OK
 - ⑥イメージ→拡大・縮小→ぐっと小さくする→編集→コピー

5. 写真に貼り付ける

- ①写真ファイルをひらく
- ②編集→ペースト
- ③好きな大きさにする
- ④移動ツールで好きな位置に

6. 活字を入れる

- ①横書きツールを選択する（縦書きは文字ツールをクリック）
- ②色をつける場合は…ウィンドウのスイッチ→色を選ぶ
- ③好きな位置に文字を打つ
- ④全てを範囲指定→編集→コピー

7. 白いレイヤーに貼る

- ①ファイル→新規→プリセットをA4に指定→横の場合は「イメージ→回転」
- ②編集→ペースト（大きさ、位置を合わせる。周囲に余白を作る）
- ③空いているところに「うまさぎっしりマーク」を入れる→完成

8. 保存する

- ①ファイル→別名で保存→保存する場所 作品提出（名前、ファイル形式JPEG）

※写真は新潟県観光協会から提供

・授業後の研究協議

『現代に生かす書教育の大事な視点とは？』

（以下、グループ討議から出てきた意見）

- ・書をデザインする方向性は大切なのか
- ・現代的なデザインとしての書に終わらず、これを入口にして芸術的なよさを伝えていく
- ・筆で文字を書く楽しさを感じさせたい（にじみ、かすれをダメを思ってしまう）
- ・個性の表現、自分を主張することにつながるほしい
- ・伝統的なことを伝えたい
- ・達成感
- ・やはり、基礎・基本を大切にすべきではないか
- ・生涯にわたって関心を持たすことのできる指導
- ・「書くこと」そのものが文化であり、誇りを持たせたい
- ・「ここぞ！」というときは手書きの文字だと考える生徒を
- ・書きっぱなしではない

・分科会

～「味わう」鑑賞指導～

「篆書学習における学習意欲・学力向上のための工夫」

＜埼玉県立越谷西高等学校 深田邦明氏＞

・「書道Ⅱ」の篆書学習での取組

生徒の学習意欲・学力の向上のため、字源（文字の成り立ち）を生徒自ら調べ、臨書・創作を行なう。『常用字解』（白川静氏）と『人名字解』（白川氏・津崎氏共著）を拠り所とする。篆書の字形・点画の意味を知ることによって篆書を正しく書けるようになる。今回、言語活動を取り入れた鑑賞指導にも力をいれた。→図版参照

生徒へのアンケートで「字源を調べることで篆書の字形・点画に意味があることを理解できた」生徒は90%、「字源を調べることで篆書の字形・点画を正しく書けた」生徒も85%いたという結果を得た。ここから、字源調べは字形・点画を正しくとらえ表現することに効果的であるといえる。また、鑑賞についても「鑑賞会を通して、鑑賞を深めることができましたか」という問いに88%の生徒が肯定的な回答であった。ワークシートを使い、互いの良い点・改善点すべき点を挙げ、意見交換する機会を設けることは生徒の鑑賞を深めることになることが分かった。

「読売新聞によれば、白川氏の地元福井県では今年度から『白川文字学』に基づく漢字学習を全公立202小学校」で始め、県教委義務教育課では“モデル校では子どもが自発的に辞書を引きだすなど、効果がみられた”と、全校展開に期待を込める」という（平成23年4月14日朝刊より）。今後、高校書道教育においても取り入れていきたい。

	10画				
馬	𠩺	𠩻	𠩼	𠩽	𠩾
字源の語 (意・音・意・音・意)	馬	𠩺	𠩻	𠩼	𠩽
馬の形。」「うしろま。たてがみ。尻尾。馬の形。					
字源の語 (意・音・意・音・意)	𠩺	𠩻	𠩼	𠩽	𠩾
字源の語 (意・音・意・音・意)	𠩺	𠩻	𠩼	𠩽	𠩾
字源の語 (意・音・意・音・意)	𠩺	𠩻	𠩼	𠩽	𠩾

	5画				
𠩺	𠩻	𠩼	𠩽	𠩾	𠩿
字源の語 (意・音・意・音・意)	𠩺	𠩻	𠩼	𠩽	𠩾
字源の語 (意・音・意・音・意)	𠩺	𠩻	𠩼	𠩽	𠩾
字源の語 (意・音・意・音・意)	𠩺	𠩻	𠩼	𠩽	𠩾

書道Ⅱ 鑑賞の取組 白川文字学 一 馬の「𠩺」の字源を調べる。図版参照

二年二組 十番 虎氏

「デジタル教科書・デジタルコンテンツを使った鑑賞教育」

＜広島大学附属中・高等学校 磯野美佳氏＞

・表現と鑑賞は表裏一体である。

しかし、鑑賞のための教材が不足している（地域の文化財や人材の有無、美術館までの行程）。そこで ICT 化を試みる。この時に重視したのが以下の五点。

- ①従来型（VTR や図版）の搭載が可能であること
- ②操作性が簡便であること
- ③データの追加、並び替えが可能であること
- ④拡大（細部の鑑賞）、縮小（全体像の鑑賞）がかのうであること
- ⑤インタラクティブな機能であること

今後、小中学校にデジタル教科書が導入されていくことが予想される。ここでは指導者が教材を提示し授業で活用することを目的とした指導者用デジタル教科書の作成を試みる。

作り方は、紙媒体の教科書をいわゆる「自炊」（自分で紙媒体をスキャンしてパソコンに取り込む作業）を行えうことで、デジタル教科書が完成する——教育現場のみでの使用であれば著作権には触れない——。

また、生徒作品もデジタルカメラで撮影し、その画像データを保管する（デジタルポートフォリオ）。今回は「楽2ライブラリ」というソフトを使用。

（手順

- ①デジタルカメラで試書と清書を撮影
- ②①のデータをパソコンに取り込む
- ③②を「楽2ライブラリ」上の個人ファイルに異動させる（あらかじめ生徒一人一人の名前でファイルを作成し、クラスのキャビネットで保管すると管理が簡単）

以上のデータを使い、デジタル黒板上で生徒の臨書作品（黒字）と古典作品（赤色に加工したもの）を重ね合わせ、両者の差異を明確に提示することができる。従来は横に並べての比較であったが、重ね合わせはより課題の明確化を可能にする（線の長さ、方向、余白に注目する生徒が増えた）。

生徒の多くから好評であった。しかし、どのような学習場面でこういった使い方が効果的なのかは今後の検討課題である。

授業者の立場として、画面上で教科書（古典）に書き込みできる点やクローズアップさせて細部の鑑賞が可能となる点など今後の可能性を感じた。

※電子黒板について

EPSON : ELPIUO 2 (参考価格¥99,800)

⇒その他の商品など、詳しくは「エプソン電子黒板」で検索

日本スマートテクノロジー : 「スマートボード」で検索

プリンストン テクノロジー株式会社 <http://www.princeton.co.jp/>

※「楽2ライブラリ」について

株式会社 PFU <http://www.pfu.fujitsu.com/raku2library/personal/>

※書画カメラ

ELMO <http://www.elmo.co.jp/niko-niko45/> (事例紹介)

<http://www.classroom-solution.jp/> 「わかりやすい授業づくりのために」

<大会に参加して>

公開授業を見終わって感じたのは、「手書き」とコンピュータとは正反対ではない、ということ。“直筆”にこだわりすぎてもいけないのではないか。手書き文字を素材のひとつとして取り扱うことで、今後、書道の授業に広がりが出てくるように思えた。ひょっとしたら「書道は筆と墨と紙と硯で行う」授業というのは旧態依然としたものであり、コンピュータでは作ることのできないフォントを書く（表現する）といった方向性に行くようにも思いました。

分科会の前半、字源調べを用いた発表については、今回の大会準備の際にも福井県での実践を耳にしたので、今我々が使っている漢字の成立を知ることは、年齢を問わず、好奇心をそそることなのだと思います。

後半の「ICT化」については、まず“「ICT」って？”というくらいデジタル関係には疎かったのである。しかし、児童はデジタル環境が当たり前の世代であり、いずれ生徒として高校へ入学してくる。環境整備が整うには時間が必要ではあるが、それに備えなければいけないことを痛感した。画面に直接指でかんたんに操作できる機器は鑑賞活動には、かなりの効果が期待できる——実際に、iPad2 といった機器を操作してつくづくこのことを実感——と思いました。

研究発表①② ・ 研究協議会Ⅱ

授業実践に向けて具体的手立てを探る ～授業実践から～

発表者 石川県書写書道教育連盟 研究調査部

書写書道教育における今日的課題 ～全国の実践を受けて～

発表者 田中 学 先生 (石川県立金沢中央高等学校)
司会 水上 真由美 先生 (金沢市立金沢伏見高等学校)
記録 黒川 なつき (白山市立蝶屋小学校)

授業実践に向けて具体的手立てを探る ～授業実践から～

実践発表

- ・七尾市立天神山小学校の取り組み
- ・内灘町立清湖小学校のとりくみ

◇発表者より

【七尾市立天神山小学校】

- ・文字の組み立て方（がんだれと下の字）を考えさせる。
- ・3種類の「原」を実際を書いて、考えさせる。
- ・机間指導で朱墨を使いながら、指導する。
- ・動画で授業の様子を見る。

【内灘町立清湖小学校】

- ・児童一人ひとりの鉛筆の持ち方をカメラ付きタブレットPCで撮影し、実態を把握する。
- ・鉛筆の持ち方、鉛筆の角度、筆順、姿勢で分析する。
- ・鉛筆の持ち方と筆順との関連性はない。
- ・動画で見せたことで、児童自身が鉛筆の持ち方を意識するようになった。
- ・「はね」と鉛筆の持ち方の関連性を調べてみたい。

書写書道教育における今日的課題 ～全国の実践を受けて～

第36回全日本高等学校書道教育研究会（新潟大会）参加報告

◇発表者より

- ・授業研究「気分はデザイナー！～ふるさと新潟 観光PRポスターを書でデザインしよう」 写真・動画を交えて報告。
- ・研究協議「現代に生かす書教育の大切な視点とは？」
デザインと書の兼ね合いや基礎基本と表現との兼ね合いについて。
- ・分科会「～味わう鑑賞指導～」
『常用字解』『人名字解』を用いて字源調べの実践報告。
- ・分科会「デジタル教科書・デジタルコンテンツを使った鑑賞教育」
- ・教材のデジタル化の現状報告。

◇質疑応答より

・文部科学省は鉛筆の持ち方はどのような捉えでいるのか。

→利き手までは触れられていないが、平成元年までの学習指導要領については、持ち方のイメージ図があった。平成10年度以降の指導要領には、イメージ図がなく、機能的に持ちやすいことが大切ということになった。形だけにこだわるのではないという立場である。

・鉛筆をもつことは運動学にも繋がる。動くところ、動かないところ、合理的な持ち方である。お箸の持ち方にもつながる。

→担当するクラスに食べるのが遅い子どもがいて、お箸をちゃんと持っていない。確かにつながるようである。

・研究テーマにある「基礎基本」に鉛筆や筆の持ち方なども含まれているが、執筆法や運筆法についても本気で考えていくとよい。

・研究テーマにある「豊かな心」とは、つまずいたとき（例えば、太すぎた、細すぎたなど）どう工夫するかということではないか。友達の失敗を認めたり、一緒に考え工夫することが「豊かな心」へと繋がっていくのではないか。そうすると、授業の組み立てなども変わってくるのではないだろうか。

大会に参加して
誌上発表

第22回石川県書写書道教育研究大会に参加して 小学校の授業を見学して

県立飯田高等学校 出場 康仁

この度、第22回石川県書写書道教育研究大会に参加させていただき有難うございました。昨年に引き続き二度目の参加になります。一年前より飯田高校で書道を担当させていただいている私には、石川県書写書道連盟の研究大会と研の高等学校教育研究会書道部会の研究授業がとても勉強になっております。

学校はもちろん、書を教えることが二年目の私にとって、教科書、本、雑誌を読んだり、先生方に聞いたり勉強中ですが、実際現場でどの様に指導していらっしゃるかを見せていただくことがとても分かりやすく、助かります。高校で教えていますが、小学校、中学校でどの様に教えておられるかを知ることにより高校の指導にも生かせると思っています。

今回、初めて小学校の授業を拝見して、漢字のパネルや三種類の練習用紙を用意されたりと坂井先生の色々な工夫と児童の元気な手を挙げる姿を見て、とても新鮮で、うれしく思いました。

自分が小学校の頃、どうだったかよく覚えていませんが、日曜日、習字教室へ行く為に忘れた道具を学校へ取りに行ったことを覚えています。

この三十数年の間に児童、生徒がとても減ったり、パソコン、デジカメ等のデジタル機器の普及に伴って授業も変化しているところもありますが、今回、授業を拝見し、教える側の情熱と創意・工夫そして、児童、生徒に興味を抱かせ、基礎・基本を練習させることにより、しっかりとした字を書けるようになると思いました。

これから、パソコン、デジカメ等をうまく授業に取り入れ、書の楽しさやおもしろさも伝え、社会に出てからも役に立ててもらえる様いろいろと礼儀、作法も含めて教えていければと感じました。

子供たちが大人になってまた、書を始めてみようかなと思いついてもらえる様な授業をしたいです。

そして、書写(道)は学校で一人なので、こういう機会に普段聞けないことを諸先輩方より教えていただいたり、先生方との会話により次の授業へ取り組むパワーをもらえている気がします。

これからも末長く研究大会を続けていただきたく、また、自分も頑張っていきたいと思えます。

最後に、坂井先生、下甘田小学校の先生方、お世話していただきました連盟の方々ありがとうございました。

第22回 石川県書写書道教育研究大会に参加して

輪島市立町野小学校 坂井 一子

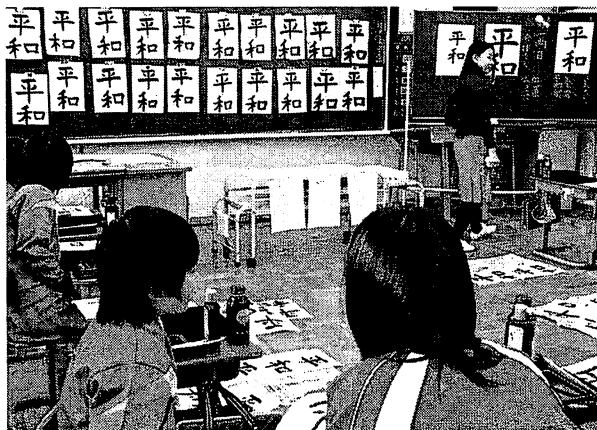
この度は、書写書道研究大会に参加させていただきありがとうございました。

私自身、今年度3学年分の書写の授業を受け持つことになり、「書写」が国語科であることをあらためて実感し、より充実した指導のあり方を学びたいという思いを強くもっていました。本大会では、公開授業から研究協議に至るまで、各校種の先生方の書写書道教育に対する熱い思いを感じると共に、今後の指導に活かしたいことがたくさんありました。

まず公開授業では、つかむ課程の自己批正の段階から本時のまとめに至るまで、児童も書写用語を適切に使うことにより、効率的に理解を深めていく姿が見られました。また、「始筆の大きさや位置による違い」「課題にあわせた練習用紙」など、きめ細やかな教具が準備されており、個の課題に応じた配慮がされていることに感心しました。

研究協議会Ⅰでは、授業者の思いとそれに対する意見がたいへん活発に話し合われました。その中には、参観された先生から「子どもたちに気づかせること」を学びの原点として実践していることの紹介や幼・小・中・高の連携の大切さなどを痛感する内容も聞くことができました。

研究協議会Ⅱでは、他校の授業実践が紹介されました。研究調査部からの「児童の鉛筆の持ち方について



の一考察」については、本校においても特に気になっていたことであり、関心を持って聞かせていただきました。一人一人の持ち方を撮影し、見せて・比べて・意識させることを継続することによって正しい持ち方に変容させていくという実践に共感し、私自身も是非、実践していきたいと思いました。

最後に、会長様より、一人一人の豊かな表現を認め、つまずきをどう工夫し生かしたら豊かさ・個性がでるのか、「豊かさ」をどう考えるかなど話され、書写書道の深さを実感しました。本大会の参加を通して、研究テーマである「基礎・基本をふまえて、豊かな心を育てる書写書道教育 ～自ら発見し、学びを深める書写書道教育～」が、いかに大切であるか感じ取ることができました。初めて大会に参加させていただきましたが、得るものが多くあり本当によかったと思っております。ありがとうございました。

第50回福井県書写書道教育研究大会（鯖丹大会）参加報告

野々市市立館野小学校 中川 晃成

大会概要

- 1 研究主題 「生きる力を育む書写書道教育」
- 2 校種別テーマ
小学校（低学年） 「基礎基本を学び、日常生活に生かす学習活動」
小学校（中学年） 「基礎基本を身につけ、日常生活に生かす学習活動」
小学校（高学年） 「基礎基本の定着を図り、日常生活に役立てる学習活動」
中学校 「確かな書写力を身につけ、学習や生活に役立てる学習活動」
高等学校 「書写能力の向上を図り、
表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす学習活動」
- 3 期日 平成23年10月20日（金）
- 4 会場 越前町立宮崎小学校
- 5 指定授業 越前町立宮崎小学校（2・3・5年）
越前町立宮崎中学校（1年）
福井県立武生高等学校（1年）【10月14日開催】
- 6 全体会
- 7 記念講演 演題 「県書研大会50回の歩みと今後の課題」
講師 元文部省初等中等教育局視学官
全国大学書写書道教育学会名誉会長
久米 公氏

（*第60回福井県児童生徒競書大会入賞作品展示）

福井県書道教育研究会の書写書道教育研究大会が50年の節目を迎えられた。これまでも研究・実践等においてたくさん学ばせていただいた福井県書道教育研究会。第1回大会は、昭和30年に開催されている。十数年前から、大会は隔年となっているため、毎年発行されている研究集録は第57集を数える。小学校から大学まで書写書道教育を一貫して研究組織を作ったの充実した実践・研究は全国でも類ないものである。心からお祝いの気持ちを届けることと今後の研究・実践の方向性を学ぶことを胸に参加させていただいた。子どもたちが基礎基本をふまえ生き生きと学ぶ姿を参観するとともに、これまでの研究を積み重ねてこられた先達、現に研究に集われている諸先生方の熱意に心打たれた次第である。以下に僅かであるがその一部を報告する。

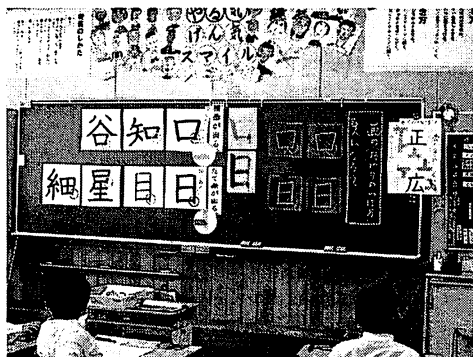
*指定（公開）授業

冒頭の概要に記したとおり、主題は「生きる力を育む書写書道教育」とあり、小中学校では、日常生活・学習に生かし、役立てることを意識して三つの柱①基礎基本の習得、②主体的に学びあう学習活動、③日常生活への活用を軸にした授業の組み立てがなされていた。1時限の公開で小学校3学級、中学校1学級を参観したため、すべてにおいて網羅することはできないが、印象に残った場面を中心に紹介する。

1) 小学校2年生：単元「かんじたんけん」

本時の課題「画の終わりのつけ方名人になろう」

漢字の画の終わりの接し方には、横罫が出るものと立て画が出るものがあることを理解させるための手立てがとても工夫された授業。「画の終わりのつけ方の名人になるんだ」と明確な目当てを持って、熱心に授業に取り組んでいた。水書シート板を使って毛筆で範書したり、分かりやすい掲示を工夫したりして児童への意識付けを十分に行っていた。



2) 小学校3年生：単元「文字の中心に気をつけて書こう」

本時の課題：文字の中心に気をつけて
「火山」を書こう。

3年生の毛筆を使った授業。基礎基本の定着にさまざまな工夫が凝らされていた。

「穂先くん」という穂先のキャラクターを持ち、始筆の角度、穂先の向きを意識付けするなど繰り返しての基礎基本の定着がなされていた。

赤サインペンを使って、試し書きに自分の課題を書き込ませてめあてを明確にさせた

り、課題の解決にむかうために自分のめあてに沿った練習用紙を作らせたりするなど、児童が主体的に学ぶための工夫がされていた。教室の前で何人かの児童に自分のめあてや自分の練習用紙を説明することにより、お互いの学習がつながりを持ち、広がっていた。また、友達へのアドバイスなども盛んにされていて、「ポイントを明確にした伝え合う場づくり」を意識した具体的な実践の場面あり、その効果を確認することができた。学びが主体的となることの大切さがわかった。

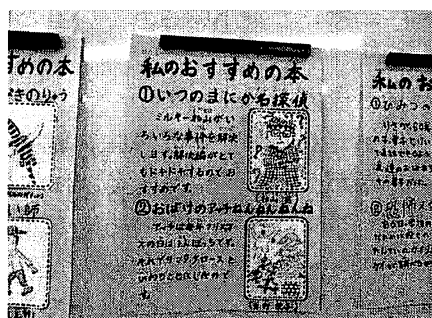
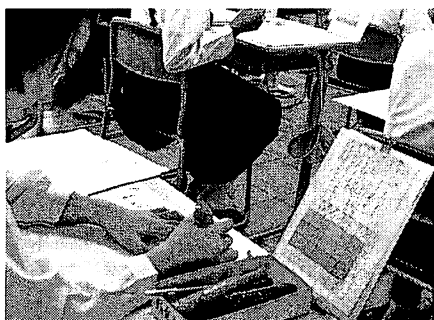
3) 小学校5年生：単元「平仮名の行の中心を知ろう」

本時の課題：ぼく・わたしの「おすすめの本」を読みやすく書こう
毛筆で「もみじ」を学習によって学んだ「平仮名の中心に気をつけて書く」こと

を「大造じさんとガン」の一文を硬筆で縦書きし、さらに横書きにおける行の中心・文字の大きさ・配列を学んだ後に、読みやすい掲示物となるようにおすすめの本を書く単元構想の授業であった。

用紙に合った文字の大きさや配列の工夫をしたり、筆記具の選択をしたりすることによって、読む人の立場になって読みやすくすることを考えさせていた。

日常の学校生活において相手に伝えるために書くこのような場面がたくさんある。伝える相手を意識して「書く」ためにこのような意図的な指導がますます大切になっていくと考える。この単元構想、授業の流れは大いに参考となると思った。



まだ練習の段階だが、出来上がった掲示は大変美しく読みやすいものであった。他の教室掲示物から拝察するに、系統だったこれまでの指導の積み重ねによって育まれた力であることも理解できた。

この授業に限らず、どの授業でも児童への意識付けのための掲示が充実していた。これだけの掲示の作成は大変な作業ではあるが、学校で少しずつ蓄積していく工夫をして、学校の財産として活用されるよう見習いたいものである。



4) 中学校1年生：単元「行書を知ろう」

本時の課題：点画の連続、方向や形の変化をつけて、行書らしい筆使いで「流星」を書こう



小学校の教室に中学生が移動しての授業。中学校の「書写」の授業はなかなか参観する機会はないので、大変ありがたかった。行書の基本を12時間の単元として学ぶ授業。

大画面テレビでDVDを活用して学ぶ工夫をされていた。生徒の姿からは、小学校で基本をしっかりと身につけていることが随所にかがうことができた。小中一体となった

研究の重要性を改めて感じた。指導案によると、定期考査においても書写の授業で学んだことが出題されているという。国語科として大切なことである。

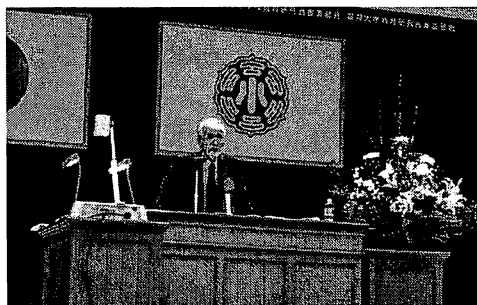
5) 校内をめぐって

第60回福井県児童生徒競書大会入賞作品、各高校の生徒の作品展示がなされていたが、その作品が充実されたものであることは言うまでもない。このように書写書道教育にたずさわる方々が集まる機会に、書写から書道へと学びを深める児童生徒の姿が作品通して体感できることは何よりもありがたい場である。書写と書道の授業におけるねらいは異なるものの、その関連性はさらに図られなくてはならない。

6) 記念講演会

「県書研大会50回の歩みと今後の課題」 久米 公先生

本連盟の研究大会にも第1回、第3回そして第10回と3回にわたって講演していただいた先生のお話を楽しみにしてしていた。いつものように書写書道教育研究へのたくさんの資料を配布されて私たちへのご教示をたくさんいただいた。



大会紀要の別冊に作られた「研究の歩み」にふれられ、50回までの伝統の確認と新しい歩みにむけての大きな財産であると述べられた。福井県書写書道教育研究会のこれまでの研究の積み重ねの中にこそ新たな歩みを進める示唆も見つけることができるということだと考えた。自らを振り返り、研究を進める姿を改めて教わったように感じた。また、東日本大震災の後、「日本の今を書こう」と題して書かれたご自身の競書手本にあえてふれられた。「日常の書字活動」につながるように、動機づけから授業展開を考えて、思考力・表現力・実践力・コミュニケーション力を育てて「生きる力」をはぐくむことにさらなる力を注ぐべきだと。ご自身の実践を通して熱を吹き込んでいただいた。今私たちは何をしなければならぬのか。久米先生、福井県の先生方に深い感謝の気持ちを持って会場を後にした。

連 盟 の あ ゆ み

連 盟 役 員 一 覧

連 盟 規 約

石川県書写書道教育連盟のあゆみ

1987. 1. 23 (昭和62年) 有志が集い県下に校種一貫した書写書道教育研究組織設立に向けて懇談する会を発足させる。(1988. 2. 26迄に9回の会合を開く)
1988. 4. 22 (昭和63年) 石川県書写書道教育懇談会と改称し第1回の会合を持つ。[金沢大学教育学部書道演習室](1995. 10. 5迄に48回開催する。)
1989. 8. 29 (平成元年) **石川県書写書道教育連盟設立総会** [ホテル六華苑]
 <平成2年度に第1回石川県書写書道教育研究大会開催することを決定>

平成元年度 石川県書写書道教育連盟役員 (敬称略)

名誉顧問	金子曾政<元金沢大学学長>	
顧問	南 和男<石川県教育長>	
相談役	北西正二 坂口 敏 田島庄吉 久田久信 氷田茂良 横西 清	
会長	藤 則雄<金沢大学教育学部長>	
副会長	[石川県教育委員会学校指導課長]	三宅正敏
	[金沢市小学校教育研究会書写部長]	河本隆成<金沢市立馬場小教頭>
	[金沢市中学校教育研究会習字部長]	大野重幸<金沢市立金石中校長>
	[石川県高等学校教育研究会書道部会長]	佐藤政俊<金沢女子高校長>
	[石川書写の会会長]	山田泰正<鹿島町立越路小校長>
	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者]	法水光雄<金沢大学助教授>
理事長	[金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者] 兼 任	
副理事長	: 幼・保部: 嘉門久直<森本幼稚園長>	
	: 小学校部: 森川登夫<津幡町立中条小校長> 谷村修次<小松市立蓮代寺小校長>	
	: 中学校部: 松寺淳照<金沢市立森本中教頭>	
	: 高校部: 中山武久<津幡高校教諭>	
監事	吉田一郎<小松市立向本折小校長>	
	木本峰生<七尾市教育委員会学校教育課長>	
理事	: 県教委学校指導課:	
	[小学校・中学校(国語科書写)担当指導主事]	永井志津子
	[高等学校(芸術科書道)担当指導主事]	高沢幹夫

* 金沢地区

- : 幼・保部: 青山洋子<みどり・かわい幼稚園副園長>
- : 小学校部: 林 道子<南小立野小教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- : 中学校部: 干場和子<野田中教諭> 古本佳世<野田中教諭>
- : 高校部: 林 昭悦<金沢女子高教諭> 石浦義彦<金沢泉丘高教諭>
- : 障害児学校部: 南 進 <県立養護学校教頭>

* 加賀地区

- : 小学校部: 穴田孝子<三谷小校長> 川筋登史己<向本折小教頭> 市村良二<木場小教諭>
- : 中学校部: 阿戸壮一郎<丸ノ内中教頭>
- : 高校部: 東野洋子<小松市立女子高教諭> 北室正枝<金沢西高講師>
- : 障害児学校部: 川上千鶴子<小松養護学校高等部主事>

* 能登地区

- : 小学校部: 西野和代<天神山小学校長> 福田教導<金ヶ崎小学校教頭>
- : 高校部: 鱒喜代子<飯田高校教諭> 大場豊治<七尾高校教諭>

事務局

- :事務局長: 永江芳教<金沢商高教諭>
- :副事務局長: 久田英夫<金沢中央高校教諭> 中川晃成<館野小教諭>
- :庶務部: 部長・中田稚子<森本中教諭> 副部長・宮嶋雅美<明和養護学校教諭>
- :会計部: 部長・佃さえ子<千代野小教諭> 副部長・八田和幸<鳴和中教諭>
- :研究部: 部長・金田京子<宇ノ気小教諭> 副部長・嵐 雪絵<金大付属中講師>
- :会報部: 部長・板橋法子<河南小教諭> 副部長・西尾恵美子<中島小教諭> 大坂育代<湯野小教諭>
- :研修部: 部長・八田和幸<鳴和中教諭> 副部長・北村千恵<山中小教諭>
- :調査部: 部長・大浦 努<大浦小教諭> 副部長・宮崎聡美<松波小教諭> 西川真理<野々市小教諭>

- 1989. 11. 15 第4回全国大学書写書道教育学会・平成元年度全国大学書道学会
- ~17 ・平成元年度日本教育大学協会全国書道教育部門会《後援》
- 12. 1 第1回理事会〔金沢商業高等学校〕
- 12. 10 『石川県書写書道教育』(創刊号) 発行

(平成 2年度)

- 1990. 5. 18 第2回理事会〔金沢商業高等学校〕
- 10. 1 『石川県書写書道教育』(第2号) 発行

11.19

第1回石川県書写書道教育研究大会
〔金沢市立南小立野小学校・金沢市立野田中学校・石川県立金沢泉丘高等学校〕

公開授業 小学校2年・中学校1年・高等学校1年

講演 久米 公先生 (文部省視学官・千葉大学教授)
演題:「新学習指導要領のめざす書写書道の学習指導」

- 11. 19 第3回理事会
- 1991. 2. 23 第4回理事会
- 3. 1 『石川県書写書道教育』(第3号) 発行

(平成 3年度)

- 6. 4 第5回理事会〔金沢商業高等学校〕
- 10. 30 『石川県書写書道教育』(第4号) 発行

11.18

第2回石川県書写書道教育研究大会
〔野々市町文化会館・野々市町立野々市小学校・石川県立養護学校〕

公開授業 小学校1年・6年 学校公開 養護学校クラブ活動等

講演 續木湖山先生(帝京大学教授)
演題:「児童生徒の心を引きつける具体的な指導方法」

- 11. 18 第6回理事会〔野々市町文化会館〕
- 1992. 3. 26 第7回理事会〔金沢ガーデンホテル〕
- 3. 30 『石川県書写書道教育』(第5号) 発行

(平成 4年度)

- 5. 28 第8回理事会〔金沢中央高等学校〕
- 10. 20 『石川県書写書道教育』(第6号) 発行

11.18

第3回石川県書写書道教育研究大会〔金沢市立鳴和中学校〕

公開授業 中学校1年

講演 久米 公先生 (千葉大学教授) 演題:「学習指導の最適化のために」

11. 18 第9回理事会 [金沢市立鳴和中学校]
1993. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第7号) 発行

(平成 5年度)

6. 4 第10回理事会 [金沢中央高等学校]

11.11

第4回石川県書写書道教育研究大会
[石川県立金沢商業高等学校・金沢市立富樫小学校・石川県立金沢泉丘高等学校]

公開授業 小学校3年 高等学校1年(2)

講演 田中東竹先生(実践女子大学教授)
演題:「江戸時代の書教育—川柳に見る手習い—」

11. 11 第11回理事会
3. 31 『石川県書写書道教育』(第8号) 発行

(平成 6年度)

6. 4 第12回理事会 [金沢中央高等学校]

10.19

第5回石川県書写書道教育研究大会[小松市立女子高等学校・小松市立安宅小学校]

公開授業 小学校6年 高等学校1年

講演 柳下昭夫先生(東京家政大学講師・前教育課程審議会委員)
演題:「文字感覚を養い、自ら学ぶ意欲を高める書写書道教育のあり方」

10. 19 第13回理事会
12. 1 『石川県書写書道教育』(第9号) 発行
1995. 3. 30 『石川県書写書道教育』(第10号) 発行

(平成 7年度)

6. 6 第14回理事会 [金沢商業高等学校]
9. 20 『石川県書写書道教育』(第11号) 発行

10.20

第6回石川県書写書道教育研究大会[鹿島町立越路小学校・ラピア鹿島]

公開授業 小学校3年 研究発表 養護学校

講演 浦野俊則先生(二松学舎大学教授) 演題:「漢字は生きている」

10. 20 第15回理事会 [鹿島町立越路小学校・ラピア鹿島]
1996. 3. 『石川県書写書道教育』(第12号) 発行

(平成 8年度)

4. 25 第16回理事会 [金沢商業高等学校]
6. 6 第17回理事会 [金沢商業高等学校]
10. 『石川県書写書道教育』(第13号) 発行

11.21

第7回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立弥生小学校・石川県立金沢中央高等学校]

公開授業 小学校4年 高等学校2年次 研究発表 中学校

講演 平形精一先生(静岡大学教授) 演題:「意欲を高めるための書写書道教育」

11. 21 第18回理事会 [石川県立金沢中央高等学校]

1997. 3. 『石川県書写書道教育』（第14号）発行

(平成 9年度)

6. 25 第19回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』（第15号）発行

11.21

第8回石川県書写書道教育研究大会[加賀市立南郷小学校・加賀市文化会館]

公開授業 小学校4年 高等学校2年次 研究発表 中学校

講演 宮澤正明先生(山梨大学助教授)
演題:「実験を通して考える書写・書道」-「手本が無くてかける」をめざして-

11. 21 第20回理事会 [加賀市文化会館]
1998. 3. 『石川県書写書道教育』（第16号）発行

(平成10年度)

7. 18 第21回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』（第17号）発行

11. 2

第9回石川県書写書道教育研究大会[内灘町立大根布小学校・内灘文化会館]

公開授業 小学校3年 研究発表 中学校・大学

講演 平形精一先生(静岡大学教授)
演題:「これからの書写・書道教育の方向と課題」

11. 2 第22回理事会 [内灘文化会館]
1999. 3. 『石川県書写書道教育』（第18号）発行

(平成11年度)

6. 16 第23回理事会 [六華苑]
9. 『石川県書写書道教育』（第19号）発行

10.19

第10回石川県書写書道教育研究大会
[七尾市立天神山小学校・七尾市立幼稚園・七尾サンライフプラザ]

公開授業 小学校5年 公開学習 幼稚園 研究協議会

講演 久米 公先生(大東文化大学教授)
演題:「書写・書道教育における今日的課題」

10.19 第24回理事会 [七尾サンライフプラザ]
2000. 3. 『石川県書写書道教育』（第20号）発行

(平成12年度)

6. 9 第25回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』（第21号）発行

12. 7

第11回石川県書写書道教育研究大会[金沢勤労者プラザ]

パネルディスカッション 研究発表

12. 7 第26回理事会 [金沢勤労者プラザ]
2001. 3. 『石川県書写書道教育』（第22号）発行

(平成13年度)

6. 9 第27回理事会 [六華苑]
10. 『石川県書写書道教育』(第23号) 発行

12. 6

第12回石川県書写書道教育研究大会[根上町総合文化会館]

研究協議

講演 町川 哲先生(香川県土庄小学校教諭)
演題:「書写指導における具体的実践にむけて」～香川県の実践をもとに～

12. 6 第28回理事会 [根上町総合文化会館]
2002. 3. 『石川県書写書道教育』(第24号) 発行

(平成14年度)

8. 8 第29回理事会 [六華苑]
10. 23 『石川県書写書道教育』(第25号) 発行
第30回理事会 [野々市町文化会館・野々市町立菅原小学校]

12. 5

第13回石川県書写書道教育研究大会[野々市町文化会館・野々市町立菅原小学校]

公開授業 小学校5年 研究協議

12. 5

(平成15年度)

2003. 8. 27 第31回理事会 [六華苑]

12. 4

第14回石川県書写書道教育研究大会[金沢市西町研修館・金沢大学サテライトプラザ]

研究協議

12. 4 第32回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]

(平成16年度)

2004. 8. 10 第33回理事会 [六華苑]
12. 『石川県書写書道教育』(第26号) 発行

12. 10

第15回石川県書写書道教育研究大会[松任市市民交流センター・松任市立蕪城小学校]

公開授業 小学校3年・6年 研究協議

12. 10 第34回理事会 [松任市市民交流センター]

(平成17年度)

2005. 10. 3 第35回理事会 [六華苑]

12. 9

第16回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫]

研究協議

12. 9 第36回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]

(平成18年度)

2006. 9. 25 『書写コンテンツ』開発 (平成18～19年度)
第37回理事会 [金沢大学サテライトプラザ]

11.27	第17回石川県書写書道教育研究大会[石川県立小松明峰高等学校・小松市立串小学校] 公開授業 小学校3年・高等学校1年 研究協議
11.27	第38回理事会 [石川県立小松明峰高等学校]
(平成19年度) 2007.10.18	第39回理事会 [兼六荘]
12.4	第18回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立三谷小学校] 公開授業 小学校5年 研究協議
12.4	第40回理事会 [金沢市立三谷小学校]
(平成20年度) 2008.10.31	第41回理事会 [兼六荘]
12.12	第19回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫] 研究協議
12.12	第42回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]
(平成21年度) 2009.8.27	第43回理事会 [兼六荘] 第44回理事会 「全日本書写書道教育研究会」団体加盟承認
12.2	第20回石川県書写書道教育研究大会[金沢市立諸江町小学校・金沢市立高岡中学校] 公開授業 小学校5年 中学校1年(2) 研究協議 講演 法水光雄先生(福井大学教授・石川県書写書道教育連盟相談役) 演題 『石川県書写書道教育連盟設立と書写書道教育の将来 一人間が人間になること・文字を手書きすること』
12.2	第45回理事会 [金沢市立高岡中学校]
(平成22年度) 2010.9.30	第46回理事会 [兼六荘]
12.3	第21回石川県書写書道教育研究大会[金沢市教育プラザ富樫] 研究協議
12.3	第47回理事会 [金沢市教育プラザ富樫]
(平成23年度) 2011.11.2	第48回理事会 [兼六荘]
12.8	第22回石川県書写書道教育研究大会[志賀町立下甘田小学校・志賀町文化ホール] 公開授業 小学校5年 研究協議
12.8	第49回理事会 [志賀町立下甘田小学校]

平成23年度 石川県書写書道教育連盟役員

(☆:新 ★:役職変更)

(敬称略)

役職	名 前	勤務先	職	備考
顧問	竹中 博康	石川県教育委員会	教育長	石川県教育委員会教育長
相談役	坂口 敏			
	久田 久信			
	永田 茂良			
	法水 光雄	福井大学教育地域科学部	教授	
	押木 秀樹	上越教育大学 学校教育学部	准教授	
参 与	吉田 一郎			
	森川 登夫			
	木本 峰生			
	谷村 修次			
	南 進			
	福田 教導			
	永井志津子			
	中山 武久			
	林 道子			
	石浦 義彦			
★ 永江 芳教				
名誉会長	藤 剛雄		金沢大学名誉教授	石川県書写書道教育連盟 前会長
会 長	宮下 孝晴	金沢大学人間社会学域人文学類	教授	
副 会 長	岩本 弘子	石川県教育委員会学校指導課	教育次長兼課長	石川県教育委員会学校指導課長
	田中 辰実	千代野幼稚園	園 長	石川県私立幼稚園協会理事長
	志水 邦子	金沢市立夕日寺小学校	校 長	金沢市小学校教育研究会(書写代表)
	石井 秀雄	金沢市立芝原中学校	校 長	金沢市中学校教育研究会書写部長
	表 純一	石川県立金沢錦丘高等学校	校 長	石川県高等学校教育研究会書道部会長
	末平万紀子	石川県立ろう学校	校 長	石川県特別支援学校校長会代表
	[志水 邦子]	金沢市立夕日寺小学校	校 長	石川書写の会会長
	折川 司	金沢大学人間社会学域学校教育学類	准教授	金沢大学(教育学部)書写書道教育担当者
理 事 長	★ 中川 晃成	野々市町立館野小学校	教 諭	
副 理 事 長	濱田美恵子	金沢市立四十万小学校	教 頭	
	高 絹子	七尾市立田鶴浜中学校	校 長	
	古本 佳世	金沢市立兼六中学校	教 諭	
	市川 利明	石川県立ろう学校	教 頭	石川県特別支援学校教頭会代表
監 事・理 事	白石 昌子	金沢市立扇台小学校	教 諭	
	石野 芳子	金沢市立西南部中学校	教 諭	金沢市中学校教育研究会書写部会幹事長
理 事(教育委員会)	谷藤真喜子	石川県教育センター研修課	指導主事	県教委 小・中学校(国語科書写)担当指導主事
	★ 荒家 直子	石川県教育委員会学校指導課	指導主事	県教委 高等学校(芸術科書道)担当指導主事
理 事(庶務部長)	[田中 学]	石川県立金沢中央高等学校	教 諭	
理 事	奥藤せい子	輪島市立河井小学校	教 諭	
	高野 正人	七尾市立天神山小学校	校 長	
事務局長	岩田 稚子	金沢市立高岡中学校	教 諭	
副事務局長	八田 和幸	金沢市立高岡中学校	教 諭	
	水上真由美	石川県立金沢伏見高等学校	教 諭	
庶務部	部 長	田中 学	石川県立金沢中央高等学校	教 諭
	副部長	佃 さえ子	白山市立松任小学校	教 諭
	部 員	西脇 良樹	志賀町立下甘田小学校	教 諭
		永井 重輝	金沢市立大野町小学校	教 諭
		山田 千恵	加賀市立山代小学校	教 諭
会計部	部 長	西尾恵美子	能美市立浜小学校	教 諭
	副部長	山口 雅美	金沢市立三馬小学校	教 諭
	部 員	橋本 美紀	羽咋市立羽咋小学校	教 諭
研究調査部	部 長	柿木 千鶴	白山市立松陽小学校	教 諭
	副部長	飯田 淳一	内灘町立滑湖小学校	教 諭
	部 員	坂井 雪絵	志賀町立下甘田小学校	教 諭
		木之下知子	金沢市立杜の里小学校	教 諭
		堀 順一郎	野々市町立野々市中学校	教 諭
		倉下 真澄	金沢大学附属中学校	講 師
		間野 清美	白山市立千代野小学校	教 諭
		東山麻由美	輪島市立鳳至小学校	教 諭
		金野 豊	金沢市立富樫小学校	教 諭
		榎木 充子	金沢市立諸江町小学校	教 諭
		黒川なつき	白山市立蝶屋小学校	教 諭
★ 堀口 美紗	石川県立金沢泉丘高等学校	講 師		
会報部	部 長	新谷 幸一	金沢市立馬場小学校	教 諭
	副部長	北野 京子	津幡町立中条小学校	教 諭
	部 員	寺井 純子	珠洲市立蛸島小学校	教 諭
		岸 瑞代	石川県立大聖寺高等学校	講 師
		山澤 聡美	小松市立声城中学校	教 諭
		中辻 育代	小松市立稚松小学校	教 諭
		吉田 美晴	金沢市立浅野川小学校	教 諭
水谷 清美	金沢市立千坂小学校	教 諭		

石川県書写書道教育連盟規約

- 第1条 (名称) 本会は、石川県書写書道教育連盟と称する。
- 第2条 (本部・事務局) 本会の本部を金沢大学教育学部内におき、事務局を事務局長の在勤校におく。
- 第3条 (目的) 本会は、授業研究を中心として、県内の幼稚園(保育園・保育所)・小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校)・障害児学校等の一貫した書写書道教育と書道文化の更なる充実発展に努めるとともに、会員相互の親睦を図ることを目的とする。
- 第4条 (事業) 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
(1) 研究会の開催
(2) 会報の発行
(3) 関連する学会・研究会・内外諸機関との連絡と協力
(4) 講演会・講習会の開催
(5) 調査研究
(6) その他必要な事業
- 第5条 (組織) 本会は、県内の幼稚園(保育園・保育所)・小学校・中学校・高等学校・大学(短期大学・専門学校)・障害児学校の教員及び本会の目的に賛同するものをもって組織する。
- 第6条 (役員) 本会に、下記の役員をおく。
会長 1名 副会長 若干名 理事長 1名
副理事長 若干名 監事 若干名 理事 若干名
事務局長 1名 副事務局長 若干名
(1) 事務局には、次の六部をを設け、各部とも、部長1名、副部長1名、部員若干名をおくものとする。
・庶務部 ・会計部 ・研究部 ・会報部 ・研修部 ・調査部
(2) 本会に、名誉顧問・顧問・相談役・参与を推戴することができる。
(3) 役員を選出と任期は、下記のように定める。
(Ⅰ) 役員は理事会において選出する。
(Ⅱ) 役員の任期は一か年とする。ただし、再任は妨げない。
- 第7条 (理事会) 本会の理事会は、本会の運営及び事業に関する重要事項を審議決定する。
(Ⅰ) 理事会は必要に応じて、会長が召集する。
(Ⅱ) 理事会は、第6条における、会長・副会長・理事長・副理事長・監事・理事・事務局長・副事務局長・事務局各部長によって構成する。
- 第8条 (会計) 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってこれにあてる。
- 第9条 (会計年度) 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第10条 (監査) 本会の会計は、監事によって監査を受ける。
- [附則]
- 第11条 規約の改訂は、理事会の議決を経なければならない。

平成 元年 8月 29日 制定
平成 2年 5月 18日 一部改定

生き生きとした
学校生活を送るための
総合質問紙調査



特長

- 支援を要する児童・生徒の把握に
- 学級経営・いじめ問題に
- ※ 約3万人のプレテストから全国値をサンプリングしています。
- 小学校1・2年生用、3・4年生用、5・6年生用
- 中学校用

価格：1人あたり**380円**(税込)

子どもの自己認識や学級適応をコンパクトに測る、i-checkの姉妹版が発売になります!



目標準拠評価

標準学力調査

● 価格 1学年1教科340円(税込) / 児童・生徒1人あたり



監修 梶田 敏一
兵庫教育大学学長

編集 加藤 明 小森 茂
京成ノートルダム女子大学教授 青山学院大学教授

協力 無藤 隆
白梅学園大学教授 お茶の水女子大学客員教授

企画 野口克海
協力 豊田学園女子大学教授

基礎・基本の学習内容を中心に、生徒の学習到達度を確認、指導改善のしるべとして「確かな学力」の育成を支援します。

企画/制作発行
東京書籍

● お申し込み・お問い合わせ

東京書籍株式会社 評価事業本部営業部

〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1 Tel: 03-5390-7451
北陸支社…〒920-0919 金沢市南町6-1 朝日生命金沢ビル Tel: 076-222-7581

硯・筆・書道用品一式・水墨画用品一式
各種書画用額縁・表装・掛軸

文房四宝 **文真堂**

貸しギャラリー **文真堂** 中国古美術 **かしょう**

石川県金沢市尾張町2丁目11の28 ☎(076) 264-1836 FAX(076) 264-1838
■ 営業時間 / 9:00~18:00 日曜日 10:00~17:00 ■ 定休日 / 祝日 ■ P / 有
E-mail: bunshindo@nifty.com ホームページ: <http://www.bunshindo.info/>

筆・墨・紙・硯・額縁・掛軸

文房四宝 **絃 貴 堂**

〒920-8202 金沢市西都2丁目92

TEL (076) 267-2077
FAX (076) 267-2078

創業百年、絶え間ない研究の精華を放つ

油煙磨墨液 純松煙磨墨液
天衣無縫 松潤

書芸吳竹



紫紺系黒
純黒
青系黒
濃墨

作品用書道液



Kuretake

株式会社 吳竹
〒630-8670 奈良市南東町7-576
TEL:0742.50.2050 FAX:0742.50.2070

四 練習用から作品用まで

墨液
(練習用)
墨液
濃墨液



玄宗

(作品用)

普通
中濃
濃墨
超濃



墨運堂

〒630-8043 奈良市六条 1-5-35
TEL (0742) 52-0310
FAX (0742) 45-6880



伝統的工芸品 熊野筆製造
併設全日本書作家養成道場

熊野筆センター
株式会社



本社 〒731-4215 広島県安芸郡熊野町出来庭 2-2-44 TEL082(854)0019
FAX082(854)2112
大阪営業所 〒580-0014 松原市岡 6丁目 5-50 TEL0723(35)0605
東京営業所 〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 31-12-201 TEL045(942)4119
“アンテナショップ” 熊野筆センター 広島店
〒730-0013 広島市中区八丁堀 5-2-9 TEL082(222)1919

伝統的工芸品指定 熊野筆
高級書道用筆墨硯

(株) 久保田徳

筆匠 竹嶋

〒731-4215
本店 広島県安芸郡熊野町城之郷 2-2-45
TEL(082)854-0019 FAX(082)854-5222
東京 東京都台東区台東 3-42-4
書道殿堂東京久保田号ビル

高級刷写用紙 各種特注用 器具製作
高級木製刷籠 各種屏風・衝立

株式会社 サン美術工芸

933-0941 本社 富山県高岡市内免4丁目-6-33
TEL 0766-21-6112 FAX 0766-25-3851
ホームページ: http://www.media-pro.co.jp/~sanbi

Eメール: san@p1.tcnet.ne.jp

・因州産紙
・書道用紙
・洋紙板紙
・包装資材



株式会社 因州屋

〒680-0912 島取市南栄町 155 番地
TEL085724-6611 FAX(0857)27-1811
E-mail inshuya@apionet.or.jp

日本画・洋画

襖
貼製
工作
事部

屏額掛
風装軸

美術部

岡田錦成堂

安江町13 表具屋小路 ☎ 金沢 221-3658

石津表具店

京都市中京区壬生馬場町16-5
TEL 075 (812) 3318

書の美しさ、楽しさを伝えたい。
光村の小・中・高 書写・書道教科書



光村図書出版株式会社

〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
Tel 03-3493-2111 Fax 03-3493-2177
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp>

新しい時代へ
新しい発想

企画・印刷・出版の分野から 新しい時代のメッセージ

 能登印刷株式会社

本社 ● 〒920-0855 石川県金沢市武蔵町7番10号
TEL 076-233-2550(代) FAX 076-233-2559
工場 ● 〒924-0013 石川県白山市番匠町293番地
TEL 076-274-0084(代) FAX 076-274-0016
グループ会社 ● 株式会社博文堂 シナジー株式会社

(株)津田精工

白山市旭丘1-4 TEL 076-276-1311

書道、水墨画用品の激安専門店!

日本書道販売株式会社

ミドリヤ

本店 石川県小松市平面町カ203
TEL 0120-58-4344 FAX 0761-22-2992
営業時間 10:00~18:00
〔定休日・毎週水曜日〕



代理店

教材・教具・文具

藤田教材

能美市浜町甲19-3
TEL 0761-55-4183

教材・教具・OA機器・その他

(有)タカセ教材

小松市錦町28番地

TEL 0761(21)2186

FAX 0761(21)4868

本・学用品・事務用品・教材
ピアノ教室(株)ミュージッククラブ

スガイ書店

河北郡津幡町字津幡ハ13番地
☎ 289-4131 FAX 288-3799
E-mail:sugai@kanazawa-net.ne.jp

あすを築く教育のいしずえ

 北陸青葉

学校教材販売
有限
会社

本田教材社

書道セット
かきかたノート
石川書写の会編
コンクール用紙

金沢市寺町1丁目3-26
☎ (076)241-1339
FAX (076)241-7705

学校教材・文具・事務用品

奈良教材文具店



白山市新田町 10-3
TEL 076-274-6370

学校教材特約店

島野教材

代表者 島野英伸

〒923-0342 石川県小松市矢田野町の41
TEL(0761)44-2622 FAX(0761)43-2828

参考書・心理検査・各種教材

株式会社 **布村教材社**

〒920-0811 金沢市小坂町中35-4
TEL (076)251-1702
FAX (076)251-1701

本・雑誌・文具・CD・楽器

知性と情操をおとどけする

うつのみや

柿木島本店/金沢市広坂 1-1-30 電話 076-234-8111

年
松
井
秀
喜

大好評 ○名前書きの指導にぴったり
あなたのお名前
の手本を
サービス ○長年使えるパウチ加工
○中央線も入って見やすい

ヤマガミの書道セットには
お手本ねーむがついてくる!

有限会社 **ヤマガミ共育社**
〒921-8001 金沢市高島3-154
TEL. 291-1250 FAX.292-8008

書籍・文房具・教材・教具

粟津書店

粟津祐治

〒924-0855 石川県白山市水島町168
TEL 277-0303
FAX 277-2505

あしたの教育を拓く

- 暁教育図書 の 教育図書・教材
 - 毎日の学習教材「はつらつ」
- 北陸暁図書販売株式会社**

金沢市石引4丁目4-4
☎(076)232-2425(代)

金沢紙商組合加盟店

取扱品 紙・印刷・事務機器・ハンコ

二木紙店

金沢市金石西3-7-9
TEL 267-0503 FAX 267-5271



教材社

金沢・北安江

TEL 231-6773

FAX 231-6940

学校教材なんでも

㈱ハローバッティングセンター

草野球から学童・中学・高校野球まで野球情報が満載
http://www.nsknet.or.jp/~hellobc/index.htm
E-mail:hellobc@nsknet.or.jp

〒920-0016 石川県金沢市緒江町中丁179-3

TEL/076-223-0541 FAX/076-223-0562

営業時間 AM 9:00~PM 11:00

参考書・心理検査・教材

金沢市福久町へ38番地3

 (株)教育統計会

TEL (076)258-5600

FAX (076)258-1808

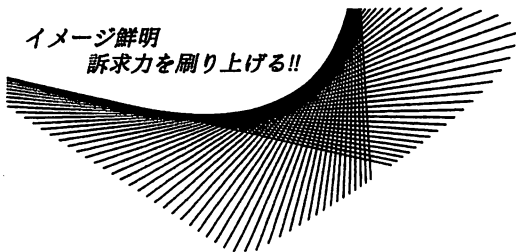
学校教材販売 日本標準特約店

新光社

〒929-0341 河北郡津幡町横浜い158-6

TEL076-288-3835 FAX076-288-5782

イメージ鮮明
訴求力を刷り上げる!!



人・夢・色、あざやか。
 宮下印刷株式会社

〒920-0047 石川県金沢市北星原町等251番地
TEL(076)263-2466(代) FAX(076)263-1234